

令和2年4月定例教育委員会資料

報告事項

## 報告資料

# 学校評価報告書

小・中・特別支援学校

（令和元年度）

丹波篠山市教育委員会

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
篠山小学校	心豊かで自律したささっ子の育成 ～感性豊かな子・進んで学ぶ子・地域を愛する子～				<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の研究を進めたことで、児童の読書量の増加につながったことは良かった。市の指定研究で成果が上がるように進めてほしい。</li> <li>・学力の二極化が進んでいるようだが、低位児童の学力向上が図られるよう、放課後学習や個別指導等で積極的な取組を期待する。</li> <li>・学校評価の結果から、家庭学習については、まだまだ課題があるようである。保護者と連携をとり、学習基盤形成の取組をさらに進められることを期待する。</li> <li>・毎日の授業が楽しいと感じている児童が多いことは素晴らしい。今後も児童がいきいきと活動して、自分の意見や考えたことが発表できる授業展開をお願いしたい。</li> </ul> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ解消100%の取組は素晴らしい。今後もこの取組を進め、個々の児童に応じた指導を充実させ、児童のより良い成長につなげてほしい。また、問題行動については、家庭や関係機関と連携し、素早く丁寧な対応をお願いする。</li> <li>・あいさつ運動を充実させ、教職員、児童会等の呼びかけで児童の意識改革をし、あいさつが飛び交う元気な学校づくりを進めてほしい。</li> <li>・児童についての情報交換を定期的に行われていることはとてもよい。</li> </ul> <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校より、学級通信、ホームページ更新等で、学校の情報を積極的に発信されたり、オープンスクール等で授業公開されたりと、今後も積極的に情報発信をお願いしたい。</li> <li>・外部講師を招聘したり、地域の活動に取り組んだり、開かれた学校づくりを進められていることは素晴らしい。</li> <li>・様々な地域行事に、地域の学校として積極的な関わりを持っていただきたい。</li> <li>・運営協議会事業で、「篠山小学校の歴史」について話ができただけよかった。今後も児童に篠山小学校区の話を開かず機会があればよいと思う。</li> </ul>
八上小学校	夢や目標を持ち、自立して学び続ける児童の育成	<p>【キャリア教育】</p> <p>【将来の夢や目標について考え生活する】</p> <p>(A) キャリアノートを有効活用し、保護者と連携を図りながら、自分の将来について考える機会を持つ。「キャリア教育」という名称とその取組が保護者に定着するよう、引き続き発信を行う。</p> <p>【学習指導】</p> <p>【学習形態の工夫】</p> <p>(A) 分からないことを分からないと言える授業づくりができた。教師の説明を短くし、児童同士の対話から生まれた発見を重視した。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>【いじめの未然防止・早期発見・早期対応】</p> <p>(A) いじめはいつでもどこでも起こるものという基本的認識に基づき、積極的認知に努めた。いじめ対応チームの機能強化を図り、早期に家庭と連携を図りながら早期解決に導いた。</p>			<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来と今現在をつなげて考えることはいいことと思う。その時その時の現状をキャリアノートに書き込み、それを中学校に持ち上げるのは良い取組だと思う。当時を振り返ることが出来る。</li> <li>・子どもたちが対話を通して学んでいる姿は素晴らしいと思う。学習の中でもお互いの良さを認め合える関係づくりが大切と思う。</li> <li>・子どもの対話も大切であるが、先生同士が職員室で悩みを言い合える関係も重要である。須磨の問題もあったが、職員間の和を大切にしてほしい。</li> <li>・あれもこれも取り組むのは難しいと思う。ポイントを絞って取り組み、成果が表れるようにしたらどうか。</li> </ul> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつができなくなっているのではないかな。ある場所では出来るが、しないところもある。子どもたちの意識がまだ育っていない。スポフェスで出会った方と顔見知りになってあいさつができるようになった子もいる。学校任せにせず、地域や家庭でも育てていかなければならない。</li> </ul> <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八上小学校の特色ある取組である「名人に弟子入り」や「高城山登山」などは、ふるさとを知るとてもいい機会なので、今後も続けてほしい。</li> <li>・「学校のことをよく知らない」という意見もあるが、学校も積極的に情報伝達し、地域や保護者もオープンハイスクールなどに積極的に参加し、各々が学校や子どものことを知ろうとすることが大切。</li> </ul>
城北畑小学校	「共に学ぼう より深く 共に歩もう 力を合わせて 共に伸びよう たくましく」	<p>【学校経営】</p> <p>【郷土を愛する児童の育成等】</p> <p>(A) 「ふるさとガイドブック」により、梅もぎ体験、黒枝豆の栽培、畑川・黒岡川の調査、クリンソウとお苗菊の栽培等、各学年に応じたふるさと学習を展開することができた。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>【問題行動への対処】</p> <p>(A) 定期的ないじめアンケートの実施、いじめ対応チームによる聞き取り、保護者への迅速な報告、職員の情報共有にスピード感をもって対応できた。</p> <p>【組織的な取組】</p> <p>(A) 学級担任→生徒指導担当→管理職への報告と、生徒指導委員会を開催するまでのルートが確立しており、事案に対し、その日の内に対応することができた。</p>			<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力テストではどんな問題がどの程度出ているのか保護者は知らないと思うので、各家庭に配布してみてはどうか。保護者の意識も変わるかもしれないし、家庭学習の取組にも影響するのではないだろうか。</li> <li>・「読み・書き・計算」は、どの教科にも通じるところがあるので、時間を確保し、繰り返し学習させてほしい。</li> <li>・今の児童が世の中に出て働く頃のことを考えると、英語は益々必要になってくると思う。様々な取組で忙しいと思うが、英語教育にも力を入れてほしい。</li> <li>・活発な授業ができているが、一部の児童に偏らないよう、目配りをしてほしい。</li> </ul> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活には、必ず友達同士のトラブルがある。子どもへの対応や保護者への報告など、迅速な取組がなされているのがよい。</li> <li>・朝のあいさつ、地域でのあいさつ(学校からの帰り)もよくできている。</li> <li>・定期的ないじめアンケートをとり、集約し、場合によって即座に対応するなど、きめ細かに対応いただいている。継続して取り組んでほしい。</li> <li>・先生によって児童への対応が異なることのないよう、職員全体で取組の方向性を示すことが大切である。</li> </ul> <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校園より、HP、学級通信等で学校園の様子がよくわかる。学校での活動を知りたいという声も聞いているので、今後とも情報を積極的に流してほしい。</li> <li>・コミスクの活動も5分野に分かれてやっている。応援団募集のチラシを知って新たに加入した人もいい。好ましいことである。どんどん啓発してほしい。また、定期的なコミスク通信なども作成してはどうか。</li> <li>・ふるさと学習では、特に3年生の黒枝豆の栽培、収穫、販売、感謝祭など、力を入れて活動されているのがよい。また、1年生から6年生までの俳句学習の取組は、他校にはない活動ではないか。ぜひ続けてほしい。</li> </ul>

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
岡野小学校	学ぶ喜びを実感させ、確かな学力と豊かな心をもった児童を育成する	<p>【学習指導の充実】 【外国人児童への日本語指導の充実】 (A)日本語指導担当によるきめ細かな個別指導により、外国人児童の基礎基本の定着が図れた。また、外国人児童生徒の在籍学級や個別授業での支援方法をまとめ、それを生かした授業を進めることで、外国人児童だけでなく、その他の児童の学力向上を図ることができた。</p> <p>【豊かな心の育成】 【豊かな心を育む学習・活動の推進】 (A)ものづくり体験事業を実施し、児童が熟練したプロの技やその人柄に触れることができた。また、元オリンピック選手(陸上競技選手)からの講話及び指導を通し、スポーツの素晴らしさや挑戦することの大切さを実感することができた。</p> <p>【地域とともにある学校づくり】 【ふるさと教育の推進】 (A)校区に落下した『隕鉄』について、複数の地域の人から聞き取りや指導を受け、それをパンフレット等に詳しくまとめることができた。また、地域の方から黒豆の栽培や調理について指導を受け、黒豆の良さを児童が実感することができた。</p>	<p>【豊かな心の育成】 【いじめ・不登校についての対応】 (C)問題行動やいじめ事案について、教職員が互いに協力して解決に向けて取り組んだが、問題の本質に深く切り込んだ指導ができなかった。また、不登校児童に対して、保護者との連携を深め、様々な取組を試みているが、本人への登校へはつながらなかった。</p>	<p>【いじめ・不登校についての対応】 (C)項目の改善策 SNS等によるトラブルへの対応については、アンケート調査による実態把握と学習会等の実施により、指導の徹底に努める。また、不登校児童への対応については、家庭訪問や交換ノートなど、可能な取組を実践することで、児童を含む家庭との信頼関係構築に努める。</p>	<p>【学習指導】 ・学校自己評価の結果から、児童の読書量の少なさが気になった。この状況を改善するために、他校で行っている「ストーリーテリング」を国語の授業に取り入れることを検討してほしい。 ・基礎基本の定着が、授業やスキルタイムを通じて図られていると思う。基礎基本を定着させるために、書くことを大事にしてほしい。</p> <p>【生徒指導】 ・思いやりの心の育成について、教職員の評価では、課題があると書かれている。これまでの指導を振り返り、特別支援学級に在籍する児童への配慮も含め、機会あるごとに思いやりの心の大切さを指導してほしい。 ・本物に触れる体験を実施したことについて教職員の評価が高いが、児童にとって貴重な体験であり、次年度も積極的に計画に入れていくべきである。 ・児童、保護者アンケートの「交通ルールを守り、安全に登校できているか」の項目に、多くの児童・保護者が「できている」と答えているが、実際には課題も多くみられる。高学年が交通ルールを守ることの大切さを自覚し、登下校の中で高学年の良さが発揮されることを望む。</p> <p>【地域連携】 ・地域素材や人材を活用した取組(岡野隕鉄、黒豆の学習)について、充実した内容であったとの評価がなされている。良い取組なので、今後も継続してほしい。 ・本年度の児童に対する交通安全教室について、課題があったと書かれているが、学校での指導の充実を図るとともに、地域の見守りボランティアの募集を引き続き行っていくことが必要である。</p>
城東小学校	生き活き! のびのび! よく学び よく遊ぶ 自立する城東っ子の育成	<p>【保護者・地域住民等との連携】 【体験活動やゲストティーチャーの活用】 (A)地域の特産物や自然、人々の暮らしに目を向けた教育ができ、積極的に地域の人材を生かすことができた。児童のふるさとへの愛着と誇りを育むことができた。</p>			<p>【学習指導】 ・自分の子をどう育てたいと思っているのか。子どもを育てるには何をすればよいのかを考えなければならない時代になった。次年度より、新学習指導要領も実施される。進んで学ぶ子を育成するための教師の働きかけを工夫してほしい。</p> <p>【生徒指導】 ・兵小体の取組で学んだ運動を、家庭で進んでできるようになった。 ・子ども同士がお互いに受け入れることができる人間関係づくりが大切。 ・子どもは学校と保護者だけではなく、地域も含め、たくさんの大人の目で見守られながら成長していくもの。学校がいかに地域にとけ込むか、積極的に機会をつくってほしい。 ・良いと思ったことを率先して行う子もいるが、他の児童をリードする所まではいかない。これは、アドバイスや注意をして嫌われることや失敗に対する恐れがあるのではないかと。場数を踏むことも、子どもを後押しする方策の一つである。</p> <p>【地域連携】 ・10周年記念事業は、心に残る事業となった。子どもたちの自信を育んだことを嬉しく思う。 ・小学校は地域コミュニティの中心。イベントを経て、地域の日も、より学校に心が一つになる。今後も5周年ごとに記念イベントを実施するなど、地域とつながる機会を設けてほしい。</p>
多紀小学校	ふるさと多紀に学び、未来に挑戦する子の育成 ～安全・安心な学校づくりを進め、心豊かで自立した児童を育む～	<p>【学習の向上】 【モジュール活用授業の工夫】 (A)職員全体で組織的に研修に取り組めた。コミュニケーションの苦手な児童もいるため、今後も話す・聞く学習活動を積極的に授業や学校行事に取り入れ、学力向上を目指す。</p> <p>【学習習慣確立のための家庭との連携】 (A)児童は、「宿題はほぼ達成できた」と回答している。学習態度や学習習慣は、家庭での生活習慣に関係するため、今後も継続して年度初めに家庭学習チェックを行う。</p> <p>【生徒指導の充実】 【いじめの未然防止・早期発見・早期対応等】 (A)いじめ事案、児童間トラブルには、聞き取りや指導、家庭との連携等、迅速且つ組織的に対応することができた。引き続き、教職員全体の認知能力、対応能力の向上に努める。</p> <p>【地域とともにある学校づくり】 【ふるさと学習】 (A)生活科や総合的な学習の時間を中心に、歴史・文化などの地域の特色を生かした学習ができた。今後もふるさと学習を継続し、保護者・地域との交流を深めていく。</p> <p>【積極的な情報発信】 (A)HPや学校だよりなどを通じて、定期的に学校の様子を発信し、多くの保護者から学校への理解を得ることができた。</p>			<p>【学習指導】 ・頭の中のことを言葉や文章にする力が弱い。読書量が減り、読書力が低くなっているのではないかと。「書く」学習は引き続き力を入れて取り組んでほしい。 ・伝える力をどのように育てていけばよいか。少人数では切磋琢磨する機会が少ないので、意識して鍛える場をつくり出すことも必要である。</p> <p>【生徒指導】 ・多紀小の「いじめ防止基本方針」については、保護者に伝わっているのか。児童間トラブルについては、大事になる前に職員が聞き取りなどをし、指導に当たってほしい。 ・「楽しい学校生活が送れていない」と回答した児童が数いるが、把握できているか。アンケート結果が気になる児童については、状況や問題等すべて聞き取りのうえ、対応願いたい。 ・アンケートの共通理解と組織対応の項目で、教職員は「100%できている」、児童のほぼ全員が「相談相手がいる」と答えているのは心強い。</p> <p>【地域連携】 ・3地区それぞれ地域の方にお世話になり、学年の学習内容に沿った中身の濃いふるさと学習ができている。 ・学習発表会では、その取組を多くの保護者・地域の方に見ていただくことができた。地域の方々の支えがある中で進めることができおり、とても有難い。 ・学校評価は、学校だよりを通じて、保護者・地域へ情報を発信し、今後を生かしてほしい。</p>

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
西紀南小学校	自他を大切にし、自立して未来を切り拓く児童の育成 ～将来の夢や目標を持ち、チャレンジ精神を培い、自らの個性と可能性を伸ばす教育～	<p>【安全安心な学校づくりを基盤にした豊かな心の育成】 【安全管理・安全教育】 (A)安全・防災に関わる学習の充実を図った。育成会や学校運営協議会による校区・校舎の安全点検等が行われ、安全で安心な学校づくりに生かすことができた。地域との連携のあり方をさらに協議し、より安全な学校づくりに努めていく。</p> <p>【内面理解に基づく生徒指導の充実】 (A)アンケートや個別面談の機会を設けて、児童の内面理解に努めた。今後も全教職員が1人ひとりの児童理解に努め、保護者と密に連携を図っていく。</p> <p>【生活習慣の定着と教育環境の充実】 【いじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止・早期発見・早期対応】 (A)組織的に指導に取り組めた。今後も教職員が多くの目で児童の様子を見取り、保護者と情報を共有しながら、未然防止・早期発見に努める。</p> <p>【地域とともにある学校づくり】 【地域人材の活用】 (A)学年で扱う地域教材や人材を整理し、生活科や総合的な学習の時間をはじめとして各教科の関連性を考慮し、学年の系統性を持って取り組むことができた。学校行事の内容については、保護者や地域の方と協議をしながら検討できた。</p>			<p>【学習指導】 ・防災教育について、校内の職員研修に運営協議会委員が参加して、教職員と地域と一緒に避難訓練の在り方や避難経路について協議できた。今後も連携して取り組んでいきたい。</p> <p>・地域と連携したふるさと学習やクラブ活動、放課後がんばりタイム、ストーリーテリングなど充実した取組がなされている。</p> <p>【生徒指導】 ・地域、中学校、育成会との連携をさらに進めていくとよい。</p> <p>・外国籍児童が増えていくなかで、児童はもとより、保護者に対しても、日本の生活や決まり、学校のルールなどを理解してもらおうことが大切である。</p> <p>【地域連携】 ・運営協議会主催事業の夏休み地域学習会は参加者が多く、今年度保護者・児童から好評であった。アンケート等をとって意見を聞き、今後の参考にしたい。</p> <p>・夏休み地域学習会に幅広く沢山の児童が参加できるよう工夫するとよい。講師謝金の金額を抑えて、児童の活動を充実させるための消耗品費等に充当させるとよい。</p> <p>・校内施設の安全点検では、地域住民としての視点での確かな点検ができた。点検後、危険箇所の改善を行い、学習環境を整備することができている。</p>
西紀小学校	未来を切り拓き、夢をかなえる力の育成 ～地域とともに ころ豊かに たくましく～	<p>【教育課程・学習指導】 【外国語・外国語活動の充実】 (A)児童・教師の課題をもとに、児童の伝え合う力を育てる外国語の授業づくりの実践研究を進め、全学級で様々な連携方法の授業公開ができた。</p> <p>【保護者・地域との連携】 【地域とともにある学校】 (A)多くの外部講師の協力を得て、農業生産活動や環境体験学習を充実することができ、各々の児童の地域行事への積極的な参加に結びついた。</p> <p>(A)カリキュラム・マネジメントによる教科横断的な「ふるさと西紀・丹波篠山」を学ぶ学習活動が、地域の協力を得て展開することができた。</p> <p>(A)HP、学校だより(月1回)、コミスクだより(学期1回)等の全戸配布により、教育活動の周知に努めることができた。</p>	<p>【安全管理・健康管理】 【安全指導、事故防止】 (C)スポーツ振興センターに係るけがは10件だが、遊具での重傷事故があった。</p>	<p>【安全指導・事故防止】 (C)項目の改善策 職員の安全意識の向上と組織ワークに継続して取り組む。</p>	<p>【学習指導】 ・話し合う活動を授業に計画的に取り入れられたり、「めあて→ふりかえり」のノート指導をされたりと工夫がある。基礎学習が身についたり、自分が思ったことを話せたりしていることは、児童の自己評価のポイントが上がっていることや、参観した教室での発表を活発にできていることから成果が感じられた。</p> <p>・授業参観、運動会、学習発表会を見る度にいろいろな工夫があり、児童に学習指導が行き届いていると感じた。</p> <p>・自分のために勉強する子が育つよう、さらに取組を進めてほしい。</p> <p>【生徒指導】 ・毎日楽しく学校に通っている子が多いとアンケートに回答されていたが、不登校傾向の児童がいるとも聞く。何か、学校へ行こうと思えるきっかけがあればと思う。</p> <p>・世間では、インターネットを巡る問題が様々あると聞くが、西紀に住んでいても無関係ではない。新しいルールを、児童会の意見も聞きながら作成されていたので、更に来年度は各家庭の足並みがそろおう、取組を進めるとよい。</p> <p>・気持ちの良いあいさつを笑顔でできる子がいる。こんなあいさつをもらおうと、小学校が身近に感じる。</p> <p>【地域連携】 ・ふるさと学習を計画的に行い、学校評価アンケートでは、ふるさとに親しんでいる子どもも増えていたり、地域の人との関わりも増えていたり、良く取組が進んでいる。</p> <p>・ふるさと学習、地域校外学習、その内容を全戸に知らせる学校便り等、良く連携が図れていると思う。しかし、家庭数が減少し、昼間仕事で不在の家庭も多く、連携が難しくなっている。</p>
西紀北小学校	ふるさとに夢や誇りを持って 未来の創り手となる北っ子の育成	<p>【学力向上】 【基礎基本の確実な定着】 (A)学力調査では、少人数のため学校全体としての特徴や傾向をつかむことは難しいが、目標値と同程度</p> <p>【生徒指導の充実】 【いじめを許さない集団づくり】 (A)児童1人ひとりの居場所のある学級・学校生活を送れるよう、月2回の実態把握交流、校内生徒指導委員会の定例化、関係機関との連携を図った。学校地域一体型の行事等を通して、草山地域の子どもを見守る体制を確立できた。また、学級担任が児童とじっくりと話を聞く機会(子ども個人懇談)を設け、内面理解を心がけた。</p> <p>【あいさつ運動の推進】 (A)教員や地域の方に対してのあいさつ(94%)だけでなく、友だち同士のあいさつ(97%)や家族とのあいさつ(91%)など、どこでも誰とでも気持ちの良いあいさつができる北っ子の育成が推進できた。</p> <p>【地域とともにある学校づくり】 【地域一体型の行事の充実】 (A)ふれあい運動会、ふれあい活動(あまご掴み大会)、楽市・楽座、北っ子広場等、学校地域一体型の行事を計画、準備の段階から、学校・保護者・地域が一体となって取り組むことにより、草山地域の活性化に努めることができた。</p> <p>【ふるさと教育の充実】 (A)草山地域の豊かな自然や、恵まれた地域の教育力を活用したふるさと学習を通して、郷土愛、愛校心を育むことができた。今年度は、「炭焼き体験」「こんにやく作り」「ビーンズサーワ―復活大作戦」として、広く情報発信できた。</p>			<p>【学習指導】 ・「がんばりタイム」に取り組む姿勢が良くなってきた。中には、自己肯定感ややる気を出せない子もいるが、家庭で褒められていないのではないかと感じた。問題が解けたときの喜びや、達成感・成就感をもっと体験させたい。</p> <p>・児童アンケートの結果、分からないことを尋ねることに抵抗感を感じる児童がいる。分からないことを分からないと言える学級づくりを進めていきたい。</p> <p>・複式学級となり、教科によって担任の先生以外と学習する機会があるが、先生が変わっても落ち着いて学習することができている。中学校では、教科担任制となるため、このような経験は大切である。</p> <p>【生徒指導】 ・子どもたちの元気の良いあいさつは、地域の元気につながっている。「あいさつ日本一の草山地域」は、地域の方々もよく意識をいただいている。今後も地域と一体となった「あいさつ運動」を続けることは、子どもたちの姿を地域の方々に見守っていただくこととなり、「地域の子は地域で育む」につながることを期待する。</p> <p>・保護者、児童ともに「睡眠時間が充分にとれていない」が22%あった。スマホやタブレットでゲーム、動画視聴をしていることが原因のようである。学校、家庭が協力して、毎年情報モラル、ルールの徹底を図る指導を続けていく。</p> <p>【地域連携】 ・地域について進んで学習し、ふるさとを大切に育っているか」というアンケートは、児童、保護者ともに約90%が「はい」と回答している。郷土愛を育み、ふるさと草山を誇りに思う教育の充実を、今後とも大切にしていきたい。</p> <p>・「ふれあい運動会」「北っ子広場」「楽市・楽座」は、「地域とともにある学校」の原点になる行事であるので、これからも継続していくことが大切である。</p>

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
大山小学校	自ら学び 心豊かで たくましい 児童の育成 めざす児童像 進んで学ぶ子ども やさしい子ども たくましい子ども	<p>【教育課程・学習指導】 【地域素材を生かした教育】 (A)地域人材、地域素材の活用継続的に取り組んでいる。新しくクラブ活動においても地域の方に関わっていただき取り組めた。 【キャリア教育の視点】 (A)各行事等においてキャリア教育の視点に立つという意識をもち、取組を進めることができた。 【生徒指導】 【基本的な生活習慣の確立】 (A)今後も児童が主体的・自主的に活動できるように学校生活全般を通じて教職員の関わり方を工夫できた。 【組織的な取組の充実】 (A)学回会議、生徒指導委員会の定期開催、いじめアンケート、子ども個人懇談の実施により、児童理解に努めるとともに、組織的な取組の充実により、未然防止に努めることができた。 【安全管理・健康管理】 【安全指導・事故指導】 (A)休み時間の見守り体制の確立と教育課程編成の工夫により、怪我の未然防止に努めることができた。地域見守り隊による下校指導に加え、地域の方々による付き添い下校の体制整備を行うことができた。 【地域連携】 【地域とともにある学校】 (A)地域の外部講師を積極的に招聘し、効果的な学習を行うことができた。地域のアドバイザーにより、学校と地域をつなぐカリキュラム(学びの地図)の構築ができた。 【情報発信】 (A)毎月の学校だよりや学級通信、新聞掲載等を通じて、教育活動を広く伝えることができた。また、HPの更新をタイムリーに行うことができた。</p>			<p>【学習指導】 ・授業は楽しく分かることが大事です。それに向けて、先生方が頑張っておられるのが分かります。 ・課題が多くなってきている中で、内容をよく検討され、精選してこられている。清掃時間を減らした取組もよいと思います。 ・教育内容が変わりつつあるようですが、校長先生、教頭先生のリーダーシップのもと、適切な対応がなされることを期待します。 ・一人一人の子どもに、必要な力をつけておられる様子が嬉しい。 ・先生が自信をもって授業に臨まれており、子どもたちがとても落ち着いて授業に臨んでいるのが嬉しい。 【生徒指導】 ・先生方は子どもたちと適切な距離感を保ちながら非常に手厚い指導を重ねておられますが、今後ともよろしくをお願いします。 ・子どもでも成人でも、「自分が好き」「役に立っている」と思える感情がやる気のベースと考えます。お互いに褒め合うことです。 ・他校と比べて児童数が少ないので、異学年合同授業や他校との交流など、多様な個性と触れ合う機会の設定を引き続きお願いしたい。 ・携帯電話やインターネット等の情報機器については、子どもたちには欠かせないツールとなっていく。危険性も併せて啓発しながら、上手く活用していけるようにしていくことが大切である。 【地域連携】 ・ふるさと教育の推進には、人材や教材を知る時間も必要だと思いますが、組織の力でよく対応されていると思います。 ・地域の歴史、文化、特産物等を子どもたちに継承していくことが一年間の学習を通してできていると思う。 ・学校の記事がよく新聞に取り上げられているので、興味を持って読んでいるし、学校のことがよく分かって嬉しい。</p>
味間小学校	～笑顔いっぱい 夢いっぱい～ ・未来への道を切り拓く力を持つ児童の育成 ・ふるさと味間を愛し誇りに思う児童の育成	<p>【保護者・地域との連携】 【地域とともにある学校】 (A)農作業支援者、丹波徳山茶生産組合等の協力を得て、ふるさと教育に積極的に取り組んだ。今後もふれあいや体験等を通してふるさと意識の醸成を図っていく。</p>	<p>【学習指導】 【学習規律】 (C)学習のルールとして、「3つの約束」を全校で共有して取り組んできた。①チャイムで授業スタート。②しゃべらずに人の話を最後まで聞く。③授業前に学習の用意をする。という内容だが、学年間に差が見られる。振り返りを定期的に行い、指導につなげていく。</p>	<p>【学習指導】 (C)項目の改善策 ・2年(新3年)において、特に課題が多く見られた。課題の分析を通し、今後の指導につなげるとともに、定期的に振り返りを行い、検証する。</p>	<p>【学習指導】 ・地域で集まったとき、話を聞かずよくしゃべる子がいる。人の話を最後まで聞けるよう指導願う。 ・「主体的に学ぶ」ことが大切である。分からないことをそのままにするのではなく、自分で確かめられるよう指導願う。 【生徒指導】 ・「いじめ」の早期発見については、アンケートに頼らず日常観察を大切にしていきたい。 ・いじめは大人の見えない所で起きる。見える所だけで判断せず、見えない所も見えるように心がけてほしい。 ・集団登校で遅れてくる子は決まっている。安全旗を持つ子が遅れたりしている。 【地域連携】 ・地域行事への参加は低学年が多い。高学年の参加が増えたら嬉しいが、今の子どもは習い事や社会体育が多く忙しい。 ・地域の文化に触れ教養も高まる。地域行事を減らさないようにしてほしい。 ・3年生が寒茶体験のアンケートで、寒茶は味が違うという意見が出ていて嬉しかった。 ・運動会など行事の際の駐車場が少ない。</p>
城南小学校	『夢や希望をもち、個が輝く楽しい学校づくり』 ～世界に通じる国際人の育成～	<p>【学習指導の充実】 【学び合い活動を取り入れた授業の確立】 (A)有効性のあるグループやペアの学び合いに向け、校内研修での視点を決め、研究を深めることができた。また、めあて提示の工夫を通して、「学び合い活動のなかで、わかる、できる児童の育成」を柱に実践できた。 【生徒指導の充実】 【学習規律・基本的な生活習慣の定着】 (A)教師だけでなく、児童会の自主・自律的な取組で安全・安心な学校生活を送ることができた。 【組織的な取組の充実】 (A)迅速ないじめ認知と組織対応で、いじめ解消100%を達成した。また、不登校傾向や特別な支援を必要とする児童への校内ケース会議からの対応など、組織で分析・対策する仕組みが確立できた。 【保護者・地域との連携】 【安全・安心な学校づくり】 (A)ネームストラップや避難訓練に力を入れ、成果を上げた。次年度は児童の安全意識や危険予測の指導に更に取り組む。 【学校経営】 【業務改善】 (A)運動会や学習発表会、学年の取組等の目的やねらいを明確にし、短縮を図って取り組むことができた。また、業務改善に関わる取組を委員会で検討し、進めることにより、退勤時刻が早まった。</p>			<p>【学習指導】 ・言葉かけ次第でやる気に繋がっていきます。一人一人の良い所を見つけ、やる気へと繋いでもらっていることに感謝です。 ・しっかりと取組を重ねてもらっているように思います。 ・低学年の基礎基本となる学習の徹底が、次学年への学習理解に大いに繋がっていくものなので、細やかな関わり、指導で学力の定着が図れるよう願います。 ・高学年は、自主学習に意欲的に取り組んでいる。 ・本を読む機会を増やす方法があればと思います。 【生徒指導】 ・校外でのあいさつが、もう少しできるようになればと思います。 ・あいさつは地域全体で取り組むことが大事なことですが、高学年の率先したあいさつは、低学年のお手本になるので、是非実行してほしいものです。 ・学校ではあいさつができていないが、地域ではできていない。自分が評価されるころでは良い態度で過ごしているが、日常的にできていないのが残念。 ・見守りなど、保護者・地域が子どもと触れ合う機会を増やすことで顔見知りになってあいさつも増えてくると思う。そんな取組を計画していきたい。 ・スマホやネットのルールは、もっと家庭や地域に周知していきたい。大人より子どもの方がよく使っているが、大人の力が必要なこともある。 【地域連携】 ・今年度、昨年度に比べ、学年だよりが多く発行されたように思います。子どもをつなぐための大事なものと受け止めていますので、今後よろしくをお願いします。また、学校だよりの配布をいただき、学校の様子がよくわかり、一層学校への関心が深まり、いつも楽しみにしています。 ・PTAとして、もっと地域・小学校の連携ができるようにしていけたらと思った。通学時や放課後など、協力を増やしていければと思う。 ・今年度は、アグリサツマイモがインソシにやられましたが、地域の方の畑の芋を掘らしていただいたことに感謝します。</p>

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
古市小学校	〈こころ豊かでたくましく、自ら考え行動する子〉 安全・安心な学校づくりを推進し、こころ豊かでたくましく自立した児童を育む。	<p>【学校経営】 【安全教育の充実】 (A)児童の危険回避能力の向上をめざした安全教育を全学年で実施した。校区内安全マップづくり等、児童の主体的な安全学習に取り組めた。(アンケート結果:保護者93%,児童84%,教員87% 以下同様) 【安心して学べる楽しい学校・学級づくり】 (A)自尊感情を育む学級経営により、学校、学級とも活気があり、明るく楽しいという評価が高かった。(保護者88%,児童95%) 【生徒指導】 【問題行動への適切な対応】 (A)いじめ、不登校等問題行動には、迅速な組織的対応、関係機関との連携、情報の共有化に努めた。生徒指導委員会(毎月)やいじめアンケート(年間3回)を実施し、いじめの疑いを含め、事案解消に努めた。 【家庭と連携】 (A)日頃から家庭との情報共有を図るとともに、指導上配慮を要する事項については、早急に家庭に連絡し、対応について連携を図った。(保護者85%,教員85%)</p>			<p>【学習指導】 ・児童や保護者のアンケートからも、「わかりやすい授業」「基礎学力の定着」については高い評価がでている。今後もさらに指導方法の工夫改善で学力の定着・向上に努めてほしい。 ・家庭での読書週間については課題が多いが、学校では読書活動によく取り組んでいただいている。最近ではタブレット等でも物語を読んだり学習したりしているので、ゲームをして遊んでいると勘違いしないよう留意したい。 【生徒指導】 ・いじめ事案の対応については、児童へのアンケートや聞き取り、保護者との連携等、組織を上げて迅速に対応していただいている。いじめなどの問題行動や不登校は、その芽が小さい内に解決することが大切である。今後も、保護者・地域・関係機関と連携を深めながら取り組んでほしい。 ・元気にあいさつしてくれる子が増えてきているように感じる。学校や児童会での取組の成果が出ているのと思う。学校外では、あいさつをよくする地区としない地区に差がある。子どもばかりに強要するのではなく、まず大人からしっかりあいさつをしていくことが大切である。 ・朝食や睡眠は子どもの体づくりの根幹となる大切なことである。今後も保護者にしっかりと周知しながら連携を深めて取り組んでほしい。 【地域連携】 ・職員やPTAによる安全点検等により、安全な教育環境が保たれている。今後も気を緩めず、安全意識をさらに高めてほしい。 ・通学路の安全確保については、今後も保護者、地域とともに取り組んでいきたい。</p>
今田小学校	ふるさと今田を誇りに思い、自立して未来に挑戦する今田っ子を育成する	<p>【生徒指導】 【児童理解と組織的な対応・外部関係機関との連携】 (A)支援を要する児童の状況に応じて、全職員の共通理解のもと組織的に且つ柔軟な支援体制をとることで、問題行動の未然防止を図った。 (A)今田中学校や医療との連携、また必要に応じてケース会議を行うなど、今後も継続して安定した生活が送れるよう支援の方向性を検討できた。 【保護者・地域との連携】 【地域人材の活用とふるさと教育】 (A)サギソウ・丹波焼焼成活動・黒豆など、地域のゲストティーチャーにお世話になり、今田小ならではのふるさと教育を推進できた。</p>	<p>【生徒指導】 【規範意識を高める指導】 (C)「あいさつを大きな声でする」等社会のルールやマナーを守らせるよう指導をしているが定着していない。児童がルールやマナーの大切さを理解し、納得し、行動に移せるように家庭と連携し、根気強く指導していく必要がある。</p>	<p>【生徒指導】 (C)項目の改善点 ・児童会とともに取組を進めることで、児童の自主性・主体性の育成に努める。</p>	<p>【学習指導】 ・児童へのアンケート結果で、「勉強はよくわかりますか」に対して、3年生ぐらいいから肯定的な意見が減っている。学習内容が難しくなることもあるが、引き続き丁寧に指導してほしい。 【生徒指導】 ・あいさつに関しては、児童に「なぜ、あいさつはしなければならないのか」を理解させ、自発的に行動できるような指導の手立てを考えること。また、あいさつは家庭の教育の範疇であるので、家庭と連携した指導はもちろんのこと、児童会を巻き込んだ取組を考えていくことが大切である。 ・いじめの認知に関しては、被害を受けた子どもの受け取り方の違いでも件数の違いが出てくると思う。これからも、一人一人に応じた地道に丁寧な取組を継続してほしい。 ・SNSに係るトラブルについて、中学校では指導が大変であると聞く。小学校でもしっかりと親を巻き込んだ指導をしていくとよい。 ・中間休み等で外遊びをしない学年があるのが気になる。小学生らしい発散の仕方ができていない。遊ぶときはしっかり遊んでほしい。 【地域連携】 ・「ふるさと講演会」は意義ある取組である。地域からの参加者を増やすような手立てを考えつつ、次年度以降も3つのテーマ(日本遺産・音楽・運動)をローテーションしながら開催していけばよい。 ・見守り隊の活動について、委員として地域の会等で多くの方に協力いただけるように働きかけをしているが限界がある。 ・ホームページの更新はなかなか大変だと思う。負担にならない程度でよいのではないか。 ・焼成活動やサギソウ栽培等、地域に根差した今田ならではの取組ができている。</p>

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
篠山中学校	基礎力・思考力・実践力をもち、支(ささ)え合いの中で躍(や)動して学(ま)び続ける生徒の育成	<p>【学習指導】</p> <p>〔「新中授業スタンダード」に基づいた授業〕</p> <p>(A) 新中授業スタンダード(共通)のある予習・書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返りによる授業改善を目指し、一人一回以上の公開授業、年5回の授業研究会を行った。目標、授業の流れなどの、より効果的な提示を行い、生徒が見直しを持って取り組める授業改善を進めることができた。</p> <p>【個別の指導計画に基づく学習指導】</p> <p>(A) 特別支援学級生徒の個別的教育支援計画を作成し、一月に一回程度の頻度で特別支援委員会を開催し、PDCAサイクルを進めてきたが、生徒数が多いため、支援策の共通理解と実施が十分でない面がある。特別支援学級生徒、通常学級で支援を要する生徒について、支援策のより重点化する方策を全職員で研修を行い、共通理解・実践を行っていきたい。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>〔指導の方向の明確化と共有化〕</p> <p>(A) ケース会議等を含む組織的指導により、問題行動実人数、不登校は減少傾向にある。一方で、保護者等の相談対応で情報共有が遅れた事例があったので、連絡体制の改善と職員研修を行った。</p> <p>【道徳授業の改善】</p> <p>(A) 他者や自己と対話する道徳の時間をローテーション等で指導し、全職員で授業と評価の研究を進めた。また、公開授業研究大会を実施し、一定の成果を上げることができた。授業スタンダードを踏まえ、「特別の教科道徳」について授業研究を継続する。</p> <p>【家庭地域連携】</p> <p>〔保護者・地域への積極的な広報活動〕</p> <p>(A) 四つの力委員会を学期に1回以上実施し、学校運営協議会に参画する団体と連携した地域貢献活動・人権啓発活動「人権ミライエ・プロジェクト」を企画し、生徒が積極的に参加した。丹波篠山ふるさと大使による講演会を実施した他、音楽の授業における和楽器、保健体育における薬物乱用に地域人材を活用できた。今後も四つの力委員会に地域人材を導入しながら、授業支援における地域人材の活用を進める。</p> <p>【学校運営協議会主催事業の推進】</p> <p>(A) ホームページの毎日更新や学校経営方針啓発チラシの全戸配付など意欲的に広報活動を行い、学校の教育活動をアピールすることができた。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>〔家庭学習の充実〕</p> <p>(C) 予習・復習をする生徒は全国的傾向より高いもの(全国学力児童生徒質問紙:64%)に留まっている。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>(C) 項目の改善策</p> <p>家庭での学習習慣の確立を図るために、教科間の連携を図りながら、系統的に予習・復習の課題を出題する。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>・生活アンケート、保護者アンケート「予習・復習をしているか」の肯定的回答率が学年によって差がある。家庭での学習習慣を育成するために、学校として統一性をもって指導してほしい。</p> <p>・自主性を引き出し得るような取組が重要である。どの程度自主勉強ができたかOKになるのか目標を持たせる。家庭学習の手順と内容を丁寧にガイダンスする。将来のビジョンと家庭での学習習慣の関係を入学当初に指導しておくなどの取組を進めてはどうか。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・楽しく学校に来ることができている生徒の割合が高い。こういう学校になっているのは素晴らしいと思う。先生方がきめ細かく取り組んでいる成果だと思う。</p> <p>・今の篠山中学校は、自信をもって、積極的に生徒の様子を見せていく状況になっているのが伝わってくる。一部生徒の交通マナーで地域からお叱りをうけることがあっても、地域でしっかりとあいさつしている。</p> <p>【地域連携】</p> <p>・中学生と大人が協議する「四つの力委員会」は、普段、地域の大人と話すことがない中学生にとっても、大人にとってもよい機会になっている。「四つの力委員会」で協議したことが、自治会長を通じて地域に広がってほしい。</p> <p>・地域の方を授業に活用していくことを進めていく。学校の中でゆとりをもって取り組めるように、特別な行事をつくるのではなく、授業の中で支援が得られる人材を活用できるか考えていく。</p> <p>・PTAでも、様々な価値観が生じてきている。学校が学年3クラス平均になっていくことを考え、学校と地域がより密接に連携を図る必要がある。何でも先生に押し付けるのはよくない。</p> <p>・生徒数の減少に伴う教職員の減少により、部活動の指導者数不足が起こってくる。学校運営協議会などで指導者を探すなど、学校の支援の展望をつくることも必要である。</p>
篠山東中学校	つなぐ力を持ち、自ら考え行動できる生徒の育成 ～気持ち 伝え 深める～	<p>【学習指導】</p> <p>〔活動(ペア学習・グループ学習)、表現のある授業〕</p> <p>〔「めあて」の提示、「ふり返し」を通じた理解度チェック〕</p> <p>(A) 「主体的・対話的で深い学び」授業改善促進事業の研究指定を受け、「めあて」が学びを深めるための道しるべになった。また、対話的学びを可視化することで、学びを実感できる振り返りにつながった。</p> <p>【道徳教育】</p> <p>〔生徒の考えや意見を大切にしたい心で授業〕</p> <p>(A) 道徳の授業で、話し合い活動の過程を可視化することにより、子どもたちの変容した姿がよくわかった。評価方法の研修が行えた。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>〔欠席生徒、不登校傾向生徒に対する組織的対応〕</p> <p>(A) 平常時の生徒指導の充実を努めた。また、定期的に委員会を開催、教育相談を実施することで早期発見、早期対応に心がけた。【毎月】の安全点検、交通立番、生徒への安全の啓発</p> <p>(A) 定期的な安全点検、毎日の交通指導、安全啓発を確実に行った。</p> <p>【家庭地域連携】</p> <p>〔積極的な広報〕</p> <p>(A) 各種たより、HP更新等により広報活動に努めた。今後もHP更新は継続しながら啓発方法の工夫・改善を図る。</p> <p>【小・中連携の推進】</p> <p>(A) 予定通り交流会、連絡会、出前授業、研修会等が実施できた。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>〔家庭学習の定着(時間・内容)に向けた指導〕</p> <p>(C) 生徒自らが「自分から学ぼう」とする主体性を育てながら家庭学習の充実を努める。</p> <p>〔休み時間、木曜日の放課後等を使った個別指導〕</p> <p>(C) 木曜日の放課後等を利用して、できる限り個に応じたきめ細やかな指導を心がけたが、時間にも人数にも制約があり効果が上がらなかった。</p> <p>【家庭地域連携】</p> <p>〔コミュニティ・スクール事業による、地域の方の教育活動への参画〕</p> <p>(C) 学校運営協議会が主催して行事を進めても参加者が固定化し、それ以上の啓発が難しい。</p> <p>【業務改善】</p> <p>〔ノ一会議デー、ノ一部活デー、定時退庁の推進〕</p> <p>(C) 業務改善について職員の意識は高まり、人任せにせず一人ひとりが主体的に考え、実行しようとしているが、限界がある。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>(C) 項目の改善点</p> <p>・漢字や単語の書き取りだけでなく、予習に重点を置いた学習や自らの考えを深める学習にするために、動画を活用する。</p> <p>・生徒に自分の動きを自覚させ、個々に適する課題に取り組みさせるためにタブレットドリルを効果的に活用する。</p> <p>【家庭地域連携】</p> <p>(C) 項目の改善点</p> <p>・啓発しやすく地域の参加者も増やすために学校行事と学校運営協議会主催行事をタイアップさせる。</p> <p>【業務改善】</p> <p>(C) 項目の改善点</p> <p>・職員会議提案時に昨年度からの変更は見え消し、強調、徹底したいところは赤字など全職員にわかりやすく提案し、業務がスムーズにできるよう工夫する。</p> <p>・本年度の担当が1つの行事を終えた後、反省を生かしながら来年度の提案文書を作成して来年度のフォルダーに入れておくなど、次の人のためにという意識を持つ。(本年度のものに見え消しや赤字により加筆訂正をする)</p>	<p>【学習指導】</p> <p>・放課後学習については、生徒自ら参加するのか先生から指名されて参加するのかわからないが、より参加しやすく、課題が解決できる環境を作ってほしい。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・ネット社会にある子どもたちには、情報機器取り扱いについては、今後も危険な具体例をあげながら継続して指導していく必要がある。</p> <p>・不登校の原因は特定しにくいと思うので、生徒に寄り添いながら信頼関係づくりをお願いしたい。</p> <p>【地域連携】</p> <p>・学校を訪問したとき、生徒は礼儀正しく、すごく気遣いができると感じた。自分の居住する地域には子どもがいなくて地域での生徒の様子はわかりにくい。</p> <p>・部活動の適正な運営にかかる方針については、子どもの夢をつぶしている。大人の都合で規定を適用してはいけない。規定の周知は小学校低学年からすべきである。子どもたちの思いをもっと聞き入れるべきである。廃部にせず休部にしてはどうか。丹波篠山市や市教育委員会が指導者やスポーツができる環境、体制づくりについて考えていくことが大切である、との意見がでた。</p>
西紀中学校	基礎力・思考力・実践力をもち、自立に向かう生徒の育成 ～元気な子ども 元気な先生 元気な学校～	<p>【学力向上・授業改善】</p> <p>〔新学習システムを活用した授業改善〕</p> <p>(A) 全学年、英語・数学における習熟度別指導、少人数指導、放課後を中心とする補充学習やがんばりタイムの実施は、効果を上げた。更なる基礎学力の定着、家庭学習の充実、学習方法の確立は課題である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>〔SSW、SCと連携した教育相談活動の充実〕</p> <p>(A) 結果として表れていない部分もあるが、生徒指導委員会、ケース会議を中心とした問題行動、不登校の未然防止、早期発見・早期対応の取組は評価できる。</p> <p>【特別活動】</p> <p>〔学校行事を通じた自主的・実践的な態度の育成〕</p> <p>(A) ねらい・目的を明確にした行事への取組や教育活動の展開が、生徒の高い意欲を引き出し、充実した授業、学校行事・生徒会活動につながっている。</p>	<p>【生徒指導】</p> <p>〔関係機関と連携した組織的・計画的な個別支援〕</p> <p>(C) 全教職員による情報の共有化、関係機関との更なる連携強化、情報モラル指導に課題を残した。</p>	<p>【生徒指導】</p> <p>(C) 項目の改善点</p> <p>次年度は、校内のヨコの連携、関係機関(警察)との連携を強化し、情報モラルにおける保護者への啓発を図っていく。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>・家庭学習の在り方・学習方法や学習習慣の確立・基礎学力の定着・外国籍生徒への指導の充実に向けて、時間をかけて具体的な指導が必要となってくる。朝の読書や読み聞かせについても、効果的な方法を検討いただきたい。1・2年生における進路指導や進路情報の提供は、時期的なこともあり、出来ていないというわけではない。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・やや厳しい評価となっているが、「まだ取り組む余地はある」ということの表れである。組織対応、早期対応はしっかりとできており、ケース会議においても、大きな成果が出ている。</p> <p>・特別支援学級生徒や外国籍生徒への細やかな配慮や支援が来ている。人を思いやる優しい心とともに、自分の思いをしっかりと主張できる生徒の育成を図ってほしい。各種ボランティア活動への参加が、心の成長につながっている。</p> <p>【地域連携】</p> <p>・「四つの力委員会」での協議は、今後も継続していくべきである。各種ボランティア活動への参加が、地域貢献活動や心の成長につながるよう、内容や方法を検討してほしい。</p> <p>・安全面における細やかな配慮もあり、高い危機意識を感じる。今後も情報モラルにおける保護者への啓発や学習会、薬物乱用防止についても、取組を継続させてほしい。</p> <p>・業務改善は、あくまで、生徒と向き合う時間を確保するという視点から推進してほしい。</p>

令和元年度 学校評価報告書(まとめ)

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価(主な評価)
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
丹南中学校	確かな学力をもち、自己実現に向かう こころ豊かな生徒の育成	<p>【学習指導】 〔予習を中心とした授業デザインの工夫〕 (A)予習(予習動画の視聴や予習プリントでの学習)をして授業に臨む学習習慣がついてきた。生徒同士が教え合い、説明する力をつけるような授業展開ができた。また、動画や予習プリントの作成を通して、教師の指導力向上につながった。次年度の研究にもつなげていく。</p> <p>【生徒指導】 〔いじめ等への対応〕 (A)毎月末実施のいじめ・SNSアンケートや定期的な教育相談を実施するとともに、日々の生徒観察や生活ノート等を通して、きめ細かな実態把握が行えた。また、問題</p>			<p>【学習指導】 ・全国学力・学習状況調査の結果より、本校で行っている予習を中心とした授業づくりの研究がしっかりと推進されていると感じる。 ・予習プリントや予習動画を活用した授業形態が定着し、家庭学習の習慣化が図られている生徒が多くなり、自分の意見や考えを積極的に発表する生徒が増加している。今後もこの取組を継続してほしい。 ・授業がわかりやすいと感じている生徒の割合が高く、ICT機器を積極的に活用するなど先生方がわかりやすい授業をするために工夫されていることが推察される。</p> <p>【生徒指導】 ・毎月のいじめ・SNSアンケートや定期的な教育相談、担任と生徒との生活ノートでのやりとり等で生徒の実態の把握が十分になされている様子がよくわかる。 ・担任が複数いるということは大変きめ細かな配慮である。今後も複数担任制を継続してほしい。また、「丹南中の生徒は全職員で見守る」という姿勢を持ち続けて一人ひとりの生徒と向き合っていたきたい。</p> <p>【地域連携】 ・さまざまな場面でとっさの場合にどのように行動すれば良いかを考えさせ、自分で考えて行動する力をつけさせていきたいので「自己安全管理」を言い続けていくことが大切である。 ・地域の中で生徒たちはよく挨拶をし、非常に気持ちが良い。生徒会が自主的にやっている「あいさつ運動」およびPTAとともにやっている「交通立番活動」は今後も継続して行い、保護者・地域との連携を深め、生徒の安全防災意識の高揚に努めることが重要である。</p>
今田中学校	主体的に学び、自己実現に向かう、こころ豊かな生徒の育成	<p>【学力向上】 〔キャリア教育の充実〕 (A)キャリア教育研究発表会を開催し、自校の取組を発信することができた。「進路について考えている」の回答が、1、2年生で高まるなど、成果が出てきている。</p> <p>【生徒指導の充実】 〔信頼関係を基盤にした生徒指導〕 (A)教育相談を随時実施することにより、教師と生徒との信頼関係が深まった。生徒の頑張りをタイムリーに評価するなど、「褒めて伸ばす」という意識が教職員に浸透した。</p> <p>【地域とともにある学校づくり】 〔コミュニティ・スクールを核にした地域・保護者との協力体制の構築〕 (A)学校運営協議会が主体となって、第2回「生き方を考える講演会」を開催するなど、コミュニティ・スクール事業を計画的に推進することができた。</p>			<p>【学習指導】 ・「家庭学習に積極的に取り組んでいる」という設問に対して肯定的に回答した生徒の83%に対し、保護者は67%である。この結果を基に、家庭で親子が話し合う機会にすべきである。 ・子どもが高校生になって、進路を考える機会が非常に増えた。今田中学校はキャリア教育に力を入れているが、それは非常に大切な取組だと感じる。目標ができたとき、子どもたちは学習にしっかりと取り組むようになる。 ・「フォーサイトノート」を活用し、時間を上手に使う力、少し先を見て計画的に努力する力を伸ばしてほしい。</p> <p>【生徒指導】 ・学校のいじめを許さないという確固たる姿勢と指導方針はとても大切である。今後も、子どものサインを見逃さない、丁寧な指導をお願いしたい。 ・不登校の生徒にいかに寄り添うか。周囲の生徒への適切な働きかけについては、今後の課題としてほしい。 ・関係機関と連携しながら、SNSについての学習を定期的に実施することは大切な取組である。情報機器を持つのが低年齢化しているため、小学校でも学習会を実施する必要があると感じる。</p> <p>【地域連携】 ・気持ちの良い挨拶ができる生徒が多く、嬉しく思う。また、サマーフェスティバルや元旦マラソンなどのボランティア活動にも積極的に参加するなど、地域との関りが深まっている。 ・ホームページについては、よく見せてもらっている。定期的に更新されているので、楽しみである。今後も地域への発信をお願いしたい。 ・運営協議会が主催する「生き方を考える講演会」については、今田中学校のコミュニティ・スクールを代表する取組である。本年度の講演も非常に良かった。来年度は今田中学校OBが講師として招聘されるが、生徒たちが将来のことや生き方について考える機会となることを期待する。</p>
篠山養護学校	夢と希望を抱き 心豊かにたくましく生きる子の育成 ～明るくいきいきと～	<p>【キャリア教育・学習指導】 〔発達段階に応じたキャリア教育〕 (A)個別の指導計画をチームで検討し、生徒の実態に合わせた指導ができた。今後も、「つきたいカリスト」を発展させ、発達段階に応じたキャリア教育の充実を目指す。</p> <p>〔個々の課題に応じた指導内容の工夫〕 (A)幼児・児童・生徒の実態や課題を把握し、個別の指導計画や支援計画、日々の指導や支援に活かすことができた。</p> <p>【生徒指導】 〔基本的な生活習慣や生活リズムの確立〕 (A)支援計画や指導計画と生徒の実態とを照らし合わせながら指導ができた。今後も外部機関と連携を図り、自立活動の指導の充実を進める。</p> <p>【地域とともにある学校づくり】 〔学校運営協議会を通じた地域との連携強化〕 (A)主催事業として「ささよう音楽会」を開き、本校関係者以外にも地域や関係事業所等から参観があった。また、新春ふれあい交流会では、協議会の委員さんや地域・関係者から多くの参加があり、有意義な交流会ができた。</p>			<p>【学習指導】 ・「つきたいカリスト」がまとめられているのがよい。普通校の指導では、なかなか過酷な状況にある子どももいる。一人一人丁寧に力を伸ばしてほしい。 ・信頼できる大人が一人いれば、子どもたちは良い方向に変わっていく。 ・キャリアの獲得については、幼小部での保護者では、先の見通しが持ちにくいかもしれない。高等部になると、3年間が早いので保護者も考えやすくなる。</p> <p>【生徒指導】 ・福祉事業所の利用者の方でも、成人になって他人をいじめたり、攻撃的に接するような人は、過去に学校でいじめの被害にあっている。学校生活を穏やかに過ごすことが大切である。 ・いじめについては、悪気がなくてもいじめになる場合がある。どのような基準でいじめを判断しているのか。 ・不登校生について、状況が改善できているのは嬉しい。卒業、入学が良い機会となって、新たな気持ちで学校生活が送れるようにしてほしい。</p> <p>【地域連携】 ・「ささよう音楽会」は良かった。音楽には力がある。来年度も続けたらよい。 ・「ささよう音楽会」で受け付けをしていたとき、保護者から聴いてもいいのかわからないという質問があった。周知はしたが、少しPR不足だったかもしれない。 ・篠山養護学校の場合は、地域というのが市全体で広範囲になり、焦点化しにくい所がある。</p>



**【学校経営に関する支援】**

- ・目標設定面談(5月)、学校訪問(1学期)、学校経営ビジョンヒアリング[目標達成状況確認面談](10月)、教職員人事ヒアリング[次年度の学校経営ビジョンの実現に向けた人事構想面談](1~2月)等、年間を通じた目標管理により指導・支援する。
- ・教育研究所において、学校要覧、経営方針(スクールプラン)、研究成果を記した冊子等の成果物、その他学校経営に係る資料等のデータを蓄積し、優れた実践や研究等については、学校経営の参考として情報発信する。
- ・教育研究所の企画する学校経営(校長)研修、教頭研修、次世代リーダー(教頭及び中堅教員等)研修、主幹教諭研修、地域とともにある学校づくり研修など、キャリアステージに応じた研修の充実を図る。研修内容等については、兵庫教育大学教職大学院学校経営コースと連携を図るとともに、小学校担当者部会、中学校教育会とも連携を強化する。
- ・校長が学校経営上困難な課題に直面したときには、学校経営指導主事が自身の豊富な経験をもとに指導・助言する。それにより、早期に問題解決を図り、危機管理能力の伸長を図る。
- ・学校安全安心づくり事業推進校(丹波篠山市立古市小学校)を指定し、安全教育・安全管理の充実について、市内各校に取組の成果を発信する。また、全校において、「学校園安全管理マニュアル」の活用、教職員を対象とした安全研修会を充実させ、安全安心な学校づくりを展開する。
- ・業務改善に向けては、「教職員定時退勤日」「ノー部活デー」「ノー会議デー」の完全実施、計画的な年次有給休暇の取得に向けて、学校の組織的な取組を支援するとともに、児童生徒、保護者、地域住民、関係機関等に取組の周知を図る。また、学校情報化専門員、ICT支援員の活用を通して校務・業務のIT化の推進を図るとともに、遠隔教育システムの導入に向けた環境整備を進め、テレビ会議の実現を図るなど、支援にあたる。
- ・中学校に部活動指導員(会計年度任用職員)の導入することで、単独での引率業務を可能とし、教職員の負担軽減を図る。

**【学力向上に関する支援】**

- ・学力向上プロジェクトチームによる調査結果の分析を通して、本市の児童生徒の実態を明らかにし、分析結果及び考察を各学校にフィードバックする。特に、次年度においては、資質・能力の基盤となる非認知能力の研究を進め、より良い学習集団の形成に資する。
- ・学力向上研修と市の指定研究を一体化させ、各校の研究成果や優れた実践事例の紹介を通して、授業改善に向けた方策に資する。
- ・基本的な生活習慣の確立や基礎学力の定着を課題とする学校には、「学力向上指導力パワーアップの手引き」や授業づくりに係るリーフレット等を活用するよう支援する。
- ・指導主事が学校を訪問し、研究指定校への研究支援や指導・助言を行う。また、若手教職員への支援として、学校経営指導主事が学校を訪問し、授業支援及び学級経営等について指導を行う。また、丹波教育事務所スーパーティーチャーの活用を図る。
- ・学力向上研修、若手教職員研修、大学等研究機関と連携した研修、キャリア教育やふるさと教育に係る研修等の充実を図る。
- ・学級経営や授業づくり、学力向上に関する教職員の相談等にも随時対応する。また、教育研究所にて整備・保管している書籍や資料等(研究冊子、指導案、授業実践等)の活用を支援する。
- ・読書習慣の確立等を課題とする学校には、読書ボランティア活動等の情報提供や学校図書館支援員の活用を通して、読書への興味関心が高まるよう支援する。

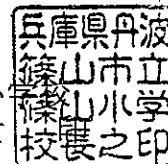
**【生徒指導に関する支援】**

- ・いじめや問題行動等の未然防止、早期対応、また再発防止に向けての取組については、担当指導主事と各校の生徒指導担当との連携を密に図り、必要に応じて学校を訪問し支援するとともに、内容によっては関係機関と連携を図る。
- ・不登校の予防と支援の充実に向けては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を通して、教育相談やケース会議等の実施、充実に向け、効果的・実効的な支援を行う。
- ・いじめ問題、不登校問題への対応研修、児童生徒理解を基盤とした研修、小中連携に係る生徒指導研修等、を通じて、教職員の資質向上及び学校の組織的対応力の向上を図る。
- ・情報機器利用に係る課題については、今や教育現場のみで抱えきれぬ課題ではなく、家庭・学校・地域が一体となって解決すべき社会的課題である。それぞれの責任において、実態把握と課題解決に向けた働きかけが必要となっているため、今後も教育委員会として実態把握に努めるとともに、継続して、以下の支援を行う。
  - 1 「インターネット利用のルール啓発推進事業」の実施を通して、各校のルールづくり・見直し及び啓発活動を支援する。
  - 2 「スクールロイヤー活用事業」を通して、各校にスクールロイヤー(法務専門員)を派遣し、情報モラル、個人情報保護、ネット利用等の実態について、講話を行う。
  - 3 学校警察連絡会等の連携の場を通じて、市内学校の課題について共有化を図るとともに、情報モラル教室等の開催にあたっては警察署員の講師招聘において支援する。また、児童虐待等に関する事案については、市福祉部局(社会福祉課)、子ども家庭センター、関係機関等と連携し、支援を行う。

**【地域連携に関する支援】**

- ・HP等の更新や各種学校便りの配布、またオープンスクールの実施については、スクールプランを明確に示し、より一層の地域とともにある学校づくりに資するよう、機会あるごとに指導、支援を行う。  
(コミュニティ・スクールの推進において)
- ・コミュニティ・スクールの推進においては、学校運営協議会が学校運営に主体的に参画する事業の開催(年間2回以上)の実施について支援する。
- ・委員の選出においては、地域代表としての宛職だけでなく、3年間の任期の中で活動できる人材を委員として推薦することが重要である旨、各校に助言する。
- ・学校運営に対する指摘や要望等に留まることなく、建設的な意見反映がなされるためにも、学校教育目標やめざす児童・生徒像を共有することが重要である。よって、当事者意識の高揚と学校運営協議会の質的向上を図るために、次年度の研修内容にも、引き続き『熟議』を通じたワークショップを導入する。

# 令和元年度 学校評価報告書



丹波篠山市立篠山小学校  
校長 源 浩 貴

## 1 学校教育目標等

心豊かで自律したささつ子の育成 ～感性豊かな子・進んで学ぶ子・地域を愛する子～

## 2 今年度の重点目標

- 国語科を中心とした研究を組織的に推進し、授業改善と学力向上に務めるとともに、教職員の指導力向上を図る。
- 生徒指導の充実を図り、教職員の協働体制を確立する。
- 「ふるさと教育」を推進し、ふるさとを愛する児童の育成に向け、体験活動や交流事業を進める。
- 親しまれ、開かれた学校づくりに努め、教育活動を地域に発信する。
- 教職員の勤務時間の適正化を進めるとともに働きやすい職場づくりを進める。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学 習 指 導	「確かに読とる力をつけ、自分の考えをもつ子の育成」を目指した授業づくりに努める	B	校内研究会を年間6回（授業研究会5回、理論研修会1回）実施し、教職員の授業力向上が図れた。 読書力向上のため「読書週間」「家読の日」を設定し、読書率を高めることができた。
	基礎・基本の定着、学習規律の確立、学習意欲向上を図るため、楽しくわかる授業づくりに努める	B	朝の学習タイム、水曜日の放課後学習の定着が図れ、充実した取り組みが出来た。 「学習が理解でき、出来るようになったことがたくさんある」と答えた児童が92%であり、取り組みの成果がでた。
生 徒 指 導	いじめ・暴力・不登校の未然防止のため、いじめアンケートや教育相談を実施し、児童理解・指導等に活かす	B	年3回のいじめアンケートを実施し、その結果をもとに生徒指導委員会で組織的に対応した結果、いじめ解消率100%である。 年3回の教育相談週間を実施し、生徒理解に努め、問題行動の未然防止に努めた。
	元気な学校、温かい学校づくりのため、明るく元気な挨拶、優しい言葉かけに努める 行事・体験活動・児童会活動を充実させ、いきいきとした学校づくりに努める	B	児童会の各委員会が教師の指導のもと機能し、学校生活の安定が図られた。更に、今以上の児童会の活性化が必要と考える。 人権朝会を年間12回実施し、人権意識の高揚に努められた。 元気な学校として朝会や終会等で挨拶を呼びかけたことで児童・保護者アンケートで挨拶が出来ているという割合が増えた。
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	開かれた学校づくりのために、学校だより・学級通信・HP等での情報発信に努める	B	毎月の学校だより全戸配付、HPの積極的な更新、週1回以上の学級だより等、地域に学校行事等の情報発信がきた。
	外部講師の招聘を積極的におこなったり、オープンスクール等を実施したりして親しまれ、開かれた学校づくりを進める。	B	年5回のオープンスクールの実施や敬老会との交流、お城ガイド、オオムラサキの飼育、校舎ありがとうプロジェクト等で多くの方々が来校され、児童とふれあう時間がより一層増え、親しまれ、開かれた学校づくりが進められた。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・子どもたちの様子を見ていると、いきいき活動していて、いい教育が進められていると感じている。ただ、普段のあいさつがあまり出来ていないような気がする。
- ・ふるさと教育で「篠山小学校の歴史」について話を聞いたのは良かった。PTAの方にも聞いていただければ良かったのではないかな。また、「丹波篠山が好き」「篠山小学校が好き」の割合が高いのは素晴らしい。
- ・児童・保護者アンケートで「毎日学校に楽しく通っている」「先生に相談できる」「学校は素早く丁寧に対応している」の達成率が昨年度より15%以上高くなっている。生徒指導が充実していることを感じる。

##### (2) 総合的な評価(意見・感想)

- ・地域としては子どものためにと考え行う行事にも保護者の感覚が変わってきていて参加する子どもの数が減少している。「何が大切か」や「優先順位の付け方」が各家庭で異なっている。また、子ども会への参加が自由になって参加率が悪くなっている。
- ・エアコン設置は完了したのか。来年度以降、夏休み等長期休暇の短縮は考えられているのか。
- ・子どもたちの言葉使いを聞いていると短縮した言葉を使ったり、使い方がおかしかったりと日本語が乱れている。英語教育よりも国語教育の指導が必要である。
- ・来年度、15分間のモジュール学習を行うということだが効果は上がるのか。出来る事をしっかりと精査して取り組んでほしい。
- ・塾に行かず親が多くなっている。
- ・今後、今の仕事の6割がなくなっていく。教育の仕方も変化していく必要がある。

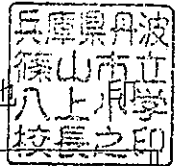
##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学 習 指 導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の研究を進めたことで児童の読書量の増加に繋がったことは良かった。来年度、丹波篠山市の指定を受け取り組む研究でも成果が上がるように進めてほしい。</li> <li>・学力の二極化が進んでいるようだが低位児童の学力向上が図れるよう放課後学習や個別指導等で積極的な取り組みを期待する。</li> <li>・学校評価の結果から家庭学習についてはまだまだ課題があるようである。保護者と連携をとり、学習基盤形成の取り組みを更に進められることを期待する。</li> <li>・今年度も多くの体験活動、ふるさと学習に取り組まれたが来年度以降も積極的に進めていってほしい。</li> <li>・毎日の授業が楽しいと感じている児童が多いことは素晴らしい。今後も児童がいきいきと活動して、自分の意見や考えたことが発表できる授業展開をお願いしたい。</li> </ul>
生 徒 指 導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ解消率100%の取り組みは素晴らしい。今後もこの取り組みを進め、個々の児童に応じた指導を充実させ、児童のより良い成長に繋げていってほしい。また、これからも問題行動については家庭や関係機関と連携し、素早く丁寧な対応をお願いする。</li> <li>・あいさつ運動を定着させ、教職員、児童会等の呼びかけで児童の意識改革をし、あいさつが飛び交う元気な学校の取り組みを今後も進めてほしい。</li> <li>・児童についての情報交換を定期的実施されていることはとてもよいことである。きめ細かな情報収集を今後も継続してほしい。</li> </ul>
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、学級通信、ホームページ更新等で学校の情報を積極的に発信されていたり、オープンスクール等で授業公開されたりと今後も積極的に情報発信をお願いしたい。</li> <li>・外部講師を招聘したり、地域の活動に取り組んだり、開かれた学校づくりを進められていることは素晴らしい。今後も継続して進めて頂きたい。</li> <li>・様々な地域行事に地域の学校としての積極的な関わりを持っていただきたい。</li> <li>・今年度、学校運営協議会事業で「篠山小学校の歴史」について話が出来たことは良かった。今後も児童に篠山小学校区の話を開くかす機会があれば良いと思う。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立八上小学校

校長 松 笠 勝 也



## 1 学校教育目標等

夢や目標を持ち、自立して学び続ける児童の育成

- (1) 自他を愛し、思いやりの心と奉仕の精神に満ちあふれた子の育成
- (2) 自分の学び方を身につけ、自ら考え、意欲的に学び続ける子の育成
- (3) 心と体を鍛え、健康でたくましい体力を備えた子の育成

## 2 今年度の重点目標

- (1) 夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む。
- (2) 確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する。
- (3) 児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る。
- (4) 保護者・地域との連携を深め、ふるさと「八上」に根ざした地域とともにある学校づくりを探求する。
- (5) 安全安心な学校づくり・学級づくりを基盤とした、豊かな人間関係と人権感覚を育成する。
- (6) 体育やスポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育	将来の自分や夢について考えたり、目標をもって日々の生活にとりくんだりすることができたか。	A	キャリアノートを有効活用し、保護者と連携を図りながら、自分の将来について考える機会を持つ。「キャリア教育」という名称とその取り組みが保護者に定着するよう、引き続き発信していく。
学習指導	授業において、児童の課題にあったいい指導をし、基礎・基本を定着させることができたか。	B	4月に前学年のまとめのプリントを実施して個々の課題や定着度を把握し、授業づくりに生かし早期の個別の支援につなげる。
	授業において「めあて」「まとめ」を意識させ、児童が見通しをもって学習できるようにしているか。	B	学習の見通しを持つという点において、発達段階に応じて予習を適切に取り入れ、各自が発表したいことや疑問点を持って授業に臨むことができるようにする。
	話し合う活動を計画的にとり入れるなど、学習形態を工夫し、学び高め合う学習指導にとりくめたか。	A	わからないことをわからないと言える授業作りをする。教師の説明を短くし、児童同士の対話から生まれた発見を重視するようにする。
生徒指導	「八上小学校いじめ防止基本方針」に基づいて全職員でとりくみ、「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応を行ったか。	A	いじめはいつでもどこにでも起こるものという基本的認識に基づき、積極的認知に努める。いじめ対応チームの機能強化を図り、早期に家庭と連携を図りながら早期解決に導くようにする。
	児童に考えさせ、児童自身が主体的に取り組む児童会活動や学級活動が行われているか。	B	学級活動の中の、話し合い活動、係活動、学級集会活動の時間を確保し、発達段階に応じて、計画、運営、振り返り等の自治的活動能力を身につけさせる。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・スポーツフェスティバルの応援合戦、みんなで協力して何かを作り出そうという空気がある。八上小学校でずっと受け継がれていると思う。いいところを伸ばしてほしい。その子のいいところ、秀でているところを伸ばしてほしい。
- ・スポーツフェスティバルでいい交流ができたと思う。特に子どもと大人が握手してジャンケンする競技は見ていてとてもほほえましかった。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・民生委員はまず顔を覚えてもらおうとあいさつ運動に取り組んだ。相手に声をかけることからコミュニケーション始まるので大事にしたいが、必ずあいさつが返ってこないといけないというわけではなく、子どもさんの様子を知る機会にしていきたい。
- ・H30の評価と比べると、前年度やろうと思ったことがつながっていないのではないかな。問題があればそれを改善していく方向で連続的にやっていくことが大事ではないか。
- ・敬老会には、メッセージ、歌の披露をしてもらっている。地域の方を知る機会になっていければいいと思う。よかったら続けてほしい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来と今現在をつなげて考えることはいいことと思う。そのときそのときの現状をキャリアノートに書き込み、それを中学校にもちあがるのはよい取り組みだと思う。当時を振り返ることができる。</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが対話を通して学んでいる姿はすばらしいと思う。学習の中でも互いの良さを認め合える関係づくりが大切と思う。</li> <li>・子どもの対話も大切であるが、先生同士が職員室で悩みを言い合える関係も重要。須磨の問題もあったが職員間の和を大切にしてほしい。</li> <li>・あれもこれも取り組むというのは難しいと思う。ポイントをしばって取り組み、成果が表れるようにしたらどうか。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつができなくなっているのではないかな。ある場所ではできるがしないところもある。子どもたちの意識がまだ育っていない。スポフェスで出会った方と顔見知りになってあいさつできるようになった子もいる。学校任せにせず地域や家庭でも育てていかねばならない。</li> </ul>
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八上小学校の特色ある取組である「名人に弟子入り」や「高城山登山」などは、ふるさとを知るとてもいい機会なので今後も続けてほしい。</li> <li>・「学校のことをよく知らない」という意見があるが、学校も積極的に情報伝達し地域や保護者もオープンスクールなどに積極的に参加し学校や子どものことを知ろうとすることが大切。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立城北畑小学校

校長 藤本



## 1 学校教育目標等

共に学ぼう より深く 共に歩もう 力を合わせて 共に伸びよう たくましく

## 2 今年度の重点目標

- ① 伝え合う授業、聞き合う授業をめざすなど、対話活動の充実とつながりのある授業の創造
- ② 児童一人ひとりのもつ特性や傾向を理解しようとする生徒指導の充実
- ③ 学校支援ボランティアや外部講師を積極的に活用する、開かれた学校づくりの充実
- ④ 整理・整頓・清掃の3Sの徹底

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校経営	① 学校に関する様々な情報の提供状況 ・地域とともにある学校づくりをめざし、積極的に情報発信できたか。 ・学校が地域のコミュニケーションの中核となり得たか。	B	○学校園だより、学級通信、HP更新、学校運営協議会だより等により、情報発信に努めることができた。 ○コミスク通信による学校応援団募集を呼びかけたところ、2名の申し込みが新たにあった。 ○学級通信では、学級目標達成に向けた取組に関する記載がやや少ないので、周知させていく。
	② 郷土を愛し誇りに思う児童の育成 ・地域の歴史、生物、特産などに関する取組ができたか。	A	○本校「ふるさとガイドブック」により、梅もぎ体験、黒枝豆の栽培、畑川と黒岡川の調査、クリンソウとお苗菊の栽培等、各学年に応じたふるさと学習を展開することができた。
学習指導	① 授業力の向上 ・話し合い、聞き合う授業による深い学びを展開することができたか。	B	○「いきいきと伝え合い、友だちとつながる外国語の授業づくり」をテーマとして校内研修を重ねてきた。特に評価について研究できたのは成果であった。 ○授業ごとの目標とゴールを毎時間設定することにより児童の学習意欲が向上した。
	② 基礎的・基本的な知識技能の徹底 ・個に応じた学習指導を展開することができたか。	B	○学テの考察により、基礎基本に関わる内容に課題がある。朝学習、放課後学習により「読み・書き・計算」学習に取り組むなど、課題学習を重ねてきた。
生徒指導	① 問題行動への対処 ・個々人の内面に対する共感的な理解に基づく指導ができたか。	A	○定期的ないじめアンケートの実施、複数教員による聞き取り、保護者への迅速な報告、職員の情報共有にスピード感を持って対応してきた。
	② 組織的な取組 ・教職員全体として取り組む体制が確立できたか。	A	○学級担任→生徒指導担当→管理職への報告、生指委員会開催するまでのルートが確立している。その日のうちに対応するよう徹底してきた。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- 夏休み中に学力調査の結果を分析することは知らなかった。児童の学習状況を知るため、今後も継続して取り組んでほしい。問題を増し刷りして保護者に配布してみてもどうか。
- 4年生から算数が難しくなると聞いている。「分からない」、とつぶやく子どもがでないようにしてほしい。
- 各学年に応じたふるさと学習が展開できているのは大変よいこと。地域応援団も多数いる。学校からの要求があれば進んで協力するので、いつでも言ってほしい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- 「勉強ができています」というアンケートの結果から、児童と保護者の間で意識に開きがあるのが気になる点である。
- スマートフォン等の普及で、児童の読書離れ、活字離れが進んでいるのが気がかりである。学校でも読み聞かせなどに取り組んでいるが、児童には本に興味を持ち続けてほしい。
- 毎日の朝食がきちんと摂れていること、就寝時間も確保できているところがいい。掃除活動も真面目であると聞いている。落ち着いた学校生活が送れていて、基本的な生活が確保できていると感じる。
- 学校であったことも家でよく話していることがアンケートで分かる。
- スポーツ指導者による指導方法が新聞に掲載されていた。上からの押しつけで教えたり、指導したりするのはなく、褒めて伸ばすことを基本にしてほしい。上からの押しつけでは成績がある程度伸びるかもしれないが、決して長続きはしないと思う。

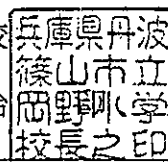
##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校園だより、HP、学級通信等で学校園の様子がよく分かる。学校での活動を知りたいという声も聞いているので、今後とも情報を積極的に流してほしい。</li> <li>○コミスクの活動も5分野に分かれてやっている。応援団募集のチラシを知って新たに加入した人もいる。好ましいことである。どんどん啓発してほしい。また、定期的なコミスク通信なども作成してみてもどうか。</li> <li>○ふるさと学習では、特に3年生の黒枝豆の栽培、収穫、販売、感謝祭など、力を入れて活動されているのがよい。また、1年生から6年生までの俳句学習への取組は、他校にはない活動ではないか。これからも是非継続してほしい。</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力テストではどんな問題がどの程度出ているのか保護者は知らないと思うので、各家庭に配布してみてもどうか。保護者の意識も変わるかも知れないし、家庭学習の取組にも影響するのではないだろうか。</li> <li>○「読み・書き・計算」は、どの教科にも通じるところがあるので、時間を確保し、繰り返し学習させてほしい。</li> <li>○今の児童が世の中に出て働く頃のことを考えると、英語はますます必要になってくると思う。様々な取組で忙しいと思うが、英語教育にも力を入れてほしい。</li> <li>○話し合いや聞き合いができ、活発な授業ができていると聞いたり、実際に見たりしてきたが、一部の児童に偏らないように気をつけるなど、目配りをしてほしい。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団生活には必ず友だち同士のトラブルがある。子どもへの対応や保護者への報告など、迅速な取組がなされているのがよい。日を延ばすと噂が噂を呼ぶことがある。</li> <li>○朝のあいさつ、地域でのあいさつ（学校からの帰り）もよくできている。</li> <li>○定期的ないじめアンケートをとり、集約し、場合によっては即座に対応するなど、きめ細かに対応していただいている。継続して取り組んでいただきたい。</li> <li>○児童の問題に関して、先生によって児童への対応が違うことのないように、職員全体で取組の方向性を示すことが大切である。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立岡野小学校

校長 杉本 克治



## 1 学校教育目標等

学ぶ喜びを実感させ、確かな学力と豊かな心をもった児童を育成する

## 2 今年度の重点目標

- (1) 児童の内面理解に基づいた生徒指導を行うとともに、豊かな心を育む学習や活動を推進し、人権教育の充実を図る。
- (2) 児童一人一人の個性や特性の理解に努め、児童が学ぶ喜びを実感できるよう、授業や活動についての工夫改善を図る。
- (3) 基礎基本の徹底を図るとともに、体験的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、学力の向上を図る。
- (4) 地域と連携したふるさと教育を推進し、郷土を愛する心を育てる。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導の充実	基礎基本の定着	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の課題と授業等で取り組むポイントをまとめ、それを全職員で共通理解し、基礎基本の定着を図った。また、人の話を聴く習慣を徹底し、授業中の話を聴く態度が良くなった。</li> <li>・読書習慣の定着に向け、図書委員会や教職員からの本の紹介等を行っているが、良く本を読む児童とそうでない児童とが二極化している。</li> </ul>
	外国人児童への日本語指導の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導担当によるきめ細かな「取り出し」指導により、外国人児童の基礎基本の定着が図れた。</li> <li>・外国人児童の在籍学級や取り出しの授業での支援方法をまとめ、それを生かした授業を進めることで、外国人児童だけでなくその他の児童の学力向上を図ることができた。</li> </ul>
豊かな心の育成	豊かな心を育む学習・活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり体験事業を実施し、児童が熟練したプロの技やその人柄に触れることができた。</li> <li>・元オリンピック選手（陸上）から児童がお話を聴くとともに、実際に指導を受け、スポーツの素晴らしさや挑戦することの大切さを実感することができた。</li> </ul>
	いじめ・不登校についての対応	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動やいじめ事案について、教職員が互いに協力して解決に向けて取り組んだが、問題の本質に深く切り込んだ指導ができなかった。</li> <li>・不登校児童に対して、保護者との連携を深め、様々な取組を試みているが、本人の登校へはつながらっていない。</li> </ul>



地域とともにある学校づくり	ふるさと教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度も校区に落下した隕鉄について、複数の地域の人から聞き取りや指導を受け、それをパンフレットに詳しくまとめることができた。</li> <li>・地域の方から黒豆の栽培や調理について指導を受け、黒豆の良さを児童が実感することができた。</li> </ul>
	地域の人々と連携した取組の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員の協力により、校区の農業支援に来ている大学生と児童との交流会を、昨年に引き続き充実した内容で行うことができた。</li> <li>・学校運営協議会委員による学校安全点検によりこれまで見つからなかった危険箇所や改善箇所がわかり、それを早期に改善することができた。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

・日々の児童の様子から、相手を思いやって行動したり、話をしたりできる児童であってほしいと思っている。また、望ましい言葉遣いや友人や教職員への関わり方を身に付けてほしいと思っているので、生徒指導や人権教育の充実は重要である。

・本を読むこと、朝ご飯を食べることは、基礎基本として一番大事だと思っている。このことを地道に教えてほしい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

・児童のアンケート結果の中で、「学校が楽しい」「一緒に遊んだり話したりする友達がいる」などの項目に「あてはまる・ややあてはまる」と答えている児童が92%以上おり、全体的に児童の関係は良好であると思う。一部の学年で、質問項目に対して「あてはまらない」と書いた児童の割合が少し高いのが気になる。

・児童・保護者のアンケートの集計結果で、ほとんどの項目について「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が80%以上であったことは大変良い。しかし、評価結果の中で書かれている教育用語「改善」「図る」「深める」「定着」「意識付け」「連携」等が、実際にどうすることなのか教職員で話をしてほしい。

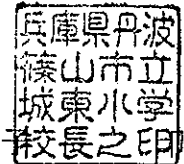
・数値的な結果による評価は大事であり、継続して行うことが必要だが、そこだけにとらわれることのないようにしてほしい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりの心の育成について、教職員の評価では課題があると書かれている。これまでの指導を振り返り、特別支援学級に在籍する児童への配慮も含め、機会あるごとに思いやりの心の大切さを指導してほしい。</li> <li>・本物に触れる体験を実施したことについて教職員の評価が高いが、児童にとって貴重な体験であり、次年度も積極的に計画に入れていくべきである。</li> <li>・児童・保護者アンケートの「交通ルールを守り、安全に登校できているか」の項目に、多くの児童・保護者が「できている」と答えているが、実際には課題が多く見られる。高学年が交通ルールを守ることの大切さを自覚し、登下校の中で高学年の良さが発揮されることを望む。</li> </ul>
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価の結果から児童の読書量の少なさが気になった。この状況を改善するために、他校で行っている「ストーリーテリング」を国語の授業に取り入れることを検討してほしい。</li> <li>・基礎基本の定着が授業やスキルタイムを通じて図られていると思う。基礎基本を定着させるために、書くことを大事にしてほしい。漢字の習得にはたいへん重要である。</li> </ul>
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域素材や人材を活用した取組について（岡野隕鉄・黒豆の学習）、充実した内容であったとの評価がされている。良い取組となっているので今後も継続して進めていってほしい。</li> <li>・本年度の児童に対する交通安全教室について課題があったと書かれているが、学校での指導の充実を図ることとともに、地域の見守りボランティアの募集を引き続き行っていくことが必要である。</li> </ul>

令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 城東小学校  
校長 押部 匡



1 学校教育目標等

生き生き！ のびのび！ よく学び よく遊ぶ 自立する城東っ子の育成

2 今年度の重点目標

- ・ Challenge 体験を通して、自立への力をつけていきます
- ・ Chance 授業でつけた力を試す機会を生かします
- ・ Change 安全安心な学習環境を整えます

3 学校自己評価結果

(達成状況… A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	①基礎的・基本的な知識技能の確実な習得と表現力の育成	B	①篠山市や全国の学力・学習状況調査の分析をもとにした授業づくりや朝のスキル、加配教員との効果的な複数指導などを通して、基礎学力の向上に努め、特に計算力には自信を持つ子が多い。しかし、公の場でのびのびと自己を表現することには戸惑いが大きく、意図的に機会を設ける必要がある。
	②学習習慣と主体的に取り組む態度の育成	B	②地域ボランティア、学校図書支援員の活用その他、本校教師による読み聞かせの交流などで本に親しむ機会を積極的につくっている。自主的な学習についても方法やよい取り組みを共有し、その意義を実感させ、家庭との連携を図りながら主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。
生徒指導	①基本的生活習慣の確立 6つの「あ」の取組 (あいさつ、あつまり、あとしまつあせ、あるく、ありがとう)	B	①「あいさつ」については、児童会の朝のあいさつ運動などでよいあいさつが増えている。見守り隊の方や地域で出会った方など、誰に対してもよいあいさつができることを次の目標に取り組んでいく。また、縦割り班掃除を取り入れたり、児童会を中心に10周年記念行事に向けて準備を進めたりする中で、児童相互の働きかけや協力する姿が多く見られ、感謝の気持ちを育むことができた。
	②いじめ・問題行動への対応	B	②いじめアンケートの実施や個々の面談等によりきめ細かに実態を把握するとともに、問題が発生した時には組織で早急に対応した。専門機関とも連携を取り、児童へのよりよい関わり方について共通理解のもと指導している。
保護者、地域住民等との連携	①学校運営協議会を中核とした地域参画による学校教育の充実と情報発信	B	①学校の情報をHPや通信等で広く発信してきた。特に今年度は創立10周年。学校運営協議会をはじめ、様々な団体の協力を得て、これまでの歩みと現在の様子を公開し、地域の学校として身近に感じてもらうことができた。
	②体験活動やゲストティーチャーの活用	A	②地域の特産物や自然、人々の暮らしに目を向けた教育ができ、積極的に地域の人材を活かすことができた。児童のふるさとへの愛着と誇りを育てることができている。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・様々な事にチャレンジする姿がたくさん見られ、1つやり遂げる度に、自信につながっている。これからも積極的に挑戦する機会を大切にしてほしい。
- ・安全点検で使用されていない備え付けのヒーターなどを確認したが、必要ないものは撤去し、すっきりとした環境でクリエイティブな活動をたくさんさせてやってほしい。
- ・10周年の節目をたくさんの方の前で児童会を中心に楽しい企画をみんなでやりきった。その様子に自ら動いてがんばる力がついていると感じた。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

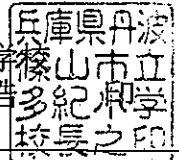
- ・子どもを中心に据えた学校教育が行われていることを強く感じ、大変喜ばしい。
- ・「学校」から「地域」だけでなく、地域の共有財産としての「学校」を地域で支えていくという意識を醸成することも必要。学校に自由に入れるよう、もっとオープンにしてはどうか。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的学習・自己表現の課題に関して               <ul style="list-style-type: none"> <li>→親としても課題を感じている。家庭での学習が「作業」になっていることも。</li> <li>→自分の子をどうしようと思っているのか。子どもを育てるにはどうするのかを考える時代になった。次年度より新学習指導要領も実施される。進んで学ぶ子を育成するための教師の働きかけを、子どもが「やってよかった」と思えるように工夫してほしい。</li> </ul> </li> <li>・元気な子どもをつくる3本柱の取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>→兵小体の取組で、家庭等で体育で経験した運動を進んでするようになった。</li> </ul> </li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導や家庭環境等、様々な課題への支援が必要な児童について               <ul style="list-style-type: none"> <li>→子どもたち同士で受け入れることができる人間関係作りが大切。支援の必要な児童だけでなく、周りの児童にとってもよい勉強の機会になる。</li> <li>→子どもは、学校と保護者の間だけでなく、地域も含めたたくさんの大人の目で見守られながら成長していくもの。学校がいかに地域に溶け込むか、積極的に機会をつくってほしい。</li> </ul> </li> <li>・よいと思ったことを率先して行う子もいるが、他の児童をリードするところまでいかない。               <ul style="list-style-type: none"> <li>→アドバイスや注意をして嫌われることや失敗に対する恐れがあるのではないかな。場数を踏むことも子どもを後押しする方策の一つである。</li> </ul> </li> </ul>
保護者、地域住民等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10周年記念事業について               <ul style="list-style-type: none"> <li>→心に残る事業となった。子どもたちの自信を育んだことをうれしく思う。</li> <li>→感動した。子どもを中心にしてしようということを意識されていることがよく分かった。学校づくりはそうあるべき。今後もその姿勢を続けてほしい。</li> <li>→イベントは、大層にするほど人の輪が大きくなる。城東振興会をはじめ、自治会やPTAなど多くの方々の協力を得て実施できたことがよかった。</li> <li>→小学校は地域コミュニティの中心。イベントを経て、地域の目もより学校に向き心が一つになる。今後も5周年ごとに記念イベントを実施するなど、地域とつながる機会を設けてほしい。</li> </ul> </li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立多紀小学校  
校長 足立 浩



## 1 学校教育目標等

### ◇学校教育目標

ふるさと多紀に学び、未来に挑戦する子の育成

～ 安全・安心な学校づくりを進め、心豊かで自立した児童を育む ～

○生命の尊厳と人権尊重の精神を基盤に、児童が自立して未来に挑戦するための確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を行う。

○教職員の資質・専門性と学校の組織力の向上に努め、児童の成長を支える環境づくりを進める。

○家庭・地域との協働のもと、子育て関係施設・団体と連携しながら、地域とともにある学校づくりを進める。

## 2 今年度の重点目標

- 1 ふるさと多紀に学び、知・徳・体のバランスの取れた生きる力を育む。
- 2 安全・安心な学校、学びを支える環境づくりを進める。
- 3 自己肯定感と自律を育み、自立に向かう心を育てる。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力の向上	学年に応じて、児童が分かる授業づくりを進め、確かな学力を身につけさせる。	B	児童90%（保護者80%）が「勉強がよくわかる」と回答し達成感を感じている。今後も多紀スタンダードや学力調査の分析をふまえ、学校全体で学力向上に取り組む。
	国語科を中心にモジュール活用授業を工夫し、言語能力とコミュニケーションスキルを高める。	A	職員全体で研修に取り組めた。コミュニケーションの苦手な児童もいるため、今後も話す・聞く学習活動を積極的に授業や学校行事に取り入れ、力をつけていく。
	書く・説明する学習活動を多く取り入れ、児童の思考力・判断力・表現力等、活用する力を伸ばす。	B	国語科だけでなく他教科でも書くことを重視した授業を行い、少しずつ書く力をつけている。引き続き全教科で書く力をつける学習を多く取り入れる。
	学習態度の向上と学習習慣の確立を図るため、学校・学級の通信や懇談等で家庭との連携を進める。	A	児童は「宿題はほぼ達成できた」と回答している。学習態度や学習習慣は、家庭での生活習慣に関係するため、年度初めに家庭学習チェックを行い家庭と連携しながら進める。
生徒指導の充実	本校「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止、早期発見、早期対応と、児童の居場所がある学級経営を進める。	A	いじめ事案・児童間トラブルには、聞きとりや指導、家庭との連携等、迅速・組織的に対応を進めた。引き続き、職員全体の認知能力・対応能力の向上を図っていく。
	自立に向かう心を育み、生活習慣を身に付けさせるため、3つの「あ」（あいさつ・あつまり・あとしまつ）を推進する。	B	高学年の挨拶運動により元気に挨拶できる子が増えた。「あつまり」では、意識して行動できた。保護者の「あとしまつ」に対する評価が低い。家庭での様子もふまえ、連携を図りながら整理整頓等の指導を進める。
	全職員で児童の実態把握、情報共有に努め、個に応じた適切な指導や支援を行う。	B	毎回、職員会議等で児童の情報共有を丁寧に行い、心温かで相談しやすい関係づくりを進めた。引き続き、学校・家庭・関係機関の連携を進めていく。

地域とともにある学校づくり	学年の学習内容に応じて、多紀地区に学ぶふるさと学習を進める。	A	生活科や総合的な学習の時間を中心に歴史、文化などの地域の特色を生かした学習ができた。今後もふるさと学習を継続し、様々な形で保護者・地域の方との交流を図っていく。
	積極的に地域に学校の情報を発信するとともに学校運営協議会を核として「地域とともにある学校づくり」を進める。	A	HPや学校だよりなどを通じて、定期的に学校の様子が発信できており、多くの保護者が満足されている。さらに確実に情報が届くよう工夫していく。
	地域行事に児童・PTAが積極的に関わることにより、心の通い合う学校・家庭・地域の関係づくりを進める。	B	地域行事に金管バンドが出演したりPTAが出演したりするなど、学校と家庭・地域の連携が深まり、地域ぐるみで子育ていただいている。今後も内容を工夫しつつ進める。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は、基礎学力や宿題の項目で「自分では達成できた」と書いている。子どもたちの自信や自己肯定感が感じられてよいが、教職員、保護者は厳しく見ている。保護者は自主的に学習してほしいと願っている。</li> <li>・安心・安全な学校について。教職員の評価が低いのに比べ保護者は高くなっている。この差については、職員は校舎内外の安全点検や児童の安全意識などの点で評価しているため、低くなっている。</li> <li>・ふるさと教育の達成度は、教職員が100%、児童・保護者とも90%以上となっている。学校では来年度から学習内容が多くなるそうだが、多紀小5年目、6年目と工夫しながら取り組んでほしい。</li> </ul>
---

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・後片付けの項目で、「できている」が児童は95%、保護者は45%となっており、評価の違いが大きい。理由として、学校など公的な場ではできるが、家庭では難しいことが考えられる。</li> <li>・自分の身を守るために、困難やつらいことから避けたり逃げたりすることも大切である。そんな力やテクニックも身につけてほしい。自分の気持ちをコントロールすることや、人と適度に距離を置くなど、人間関係づくりも学んでいる。1クラスで6年間続くので、環境・風土は大切である。</li> <li>・アンケートの結果を保護者にどのように伝えているのか。比較されたグラフを見ることで、保護者も自分やわが子を振り返ることができる。学校評価の生かし方が大切である。</li> <li>・学校運営協議会のねらいは、地域全体で子育てを進めること、その趣旨を理解しそれぞれの立場で地域に誇りを持つ子を育てていきたい。</li> </ul>
---

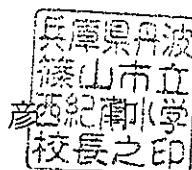
##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭の中のことを言葉や文章にする力が弱い。読書量が減り、読書力が低くなっているのではないかと。書く学習は学校でも引き続き力を入れて取り組んでいく。</li> <li>・伝える力をどのように育てていけばよいか。少人数では切磋琢磨する機会が少ないので、意識して鍛える場をつくり出すことも必要である。</li> </ul>
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多紀小の「いじめ防止基本方針」について、保護者にも伝わっているのか。児童間のトラブルについては、大事になる前に職員が聞き取りなどをして指導している。</li> <li>・「楽しい学校生活が送れていない」と回答した児童が数%いるが把握できているか。結果の気になる児童については、状況や問題等すべて聞き取り対応している。</li> <li>・児童の共通理解と組織対応の項目で、教職員は「100%できている」、児童のほぼ全員が「相談相手がいる」と答えているのは心強い。</li> </ul>
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3地区それぞれ地域の方にお世話になり、学年の学習内容に沿って中身の濃いふるさと学習ができている。</li> <li>・学習発表会ではその取組を多くの保護者・地域の方に見ていただくことができた。地域の方々の支えがある中で進めることができている、とても有り難い。</li> <li>・学校評価は、学校だよりを通じて保護者・地域へ情報を発信し、今後生かしていく。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀南小学校

校長 細見 康彦



## 1 学校教育目標等

～ 自他を大切にし、自立して未来を切り拓く児童の育成 ～  
 将来の夢や目標をもち、チャレンジ精神を培い、自らの個性と可能性を伸ばす教育

## 2 今年度の重点目標

- (1) 児童の内面理解に基づいた生徒指導を行うとともに、豊かな心を育む学習や活動を推進し、学校全体として人権教育の充実を図る。
- (2) 児童一人一人の個性や特性の理解に努め、将来への夢や目標をもって努力する児童を育てる。
- (3) きめ細かな個に応じた指導をもとに、基礎基本の徹底を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努め、学力の向上を図る。
- (4) 学校施設の安全管理、登下校の安全対策の充実を図り、子どもたちが安心して学べ、保護者・地域から信頼される学校をつくる。
- (5) 家庭や地域との連携を深め、ふるさと教育を推進し、ふるさとを愛し、誇りに思う心を育てる

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
安全安心な学校づくりを基盤にした豊かな心の育成	安全管理と安全教育の充実を図り、安全で安心な学校づくりができたか。	A	安全・防災に関わる学習の充実を図った。育成会や学校運営協議会による校区・校舎の安全点検等が行われ、安全で安心な学校づくりに生かされた。地域との連携のあり方をさらに協議し、より安全な学校になるよう努める。
	児童の内面理解に基づく生徒指導の充実が図れたか。	A	アンケートや個別面談の機会を設けて児童の内面理解に努めてきた。今後も、全教職員が一人一人の児童理解に努め、保護者の方と連絡を密にして指導にあたる。
言語活動を充実した確かな学力の育成	ことばの力を高める活動の充実を図り、表現力を育成できたか。	B	学年や発達段階に応じ、掲示物による支援、辞書の活用、自主学習の工夫など、有効な方法を取り入れ、語彙力・表現力をつける学習を継続的に行う。
	学習習慣、読書習慣の定着が図れたか。	B	きらめきグループによる読み聞かせを通して本の楽しさを味わえた。来年度も、読書週間や図書委員会の活動を工夫・継続し、読書の習慣化を図る。
生活習慣の定着と教育環境の充実	「西紀南小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期対応が図れたか。	A	組織的に指導に取り組んだ。今後も、学校教職員が多く目の目で児童の様子をみとり、保護者の方と情報を共有しながら未然防止、早期発見に努めていく。
	あから始まる学校生活（あいさつ、あつまり、あとしまつ）の定着が図れたか。	B	集合時刻を意識して行動することができるようになった。挨拶や整理整頓に重点を置いて声をかけ、家庭との連携を強化する。

地域とともにある学校づくり	地域の人材や自然、行事などを活用し、ふるさと学習に取り組めたか。	A	学年で扱う地域教材や人材を整理し、生活科や総合的な学習の時間をはじめとして各教科の関連性を考慮し、学年の系統性をもってとりこんでいく。学校行事の内容等については保護者や地域の方と協議しながらよりよいものとなるよう検討していく。
---------------	----------------------------------	---	---

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・地域と連携したふるさと学習やクラブ活動、放課後のがんばりタイム、ストーリーテリングなど充実した取組がされている。
- ・登下校の安全を守る取組に関して、これまで学校と地域等で検討して、様々な対策を講じることができた。
- ・児童はもちろん、教職員の和を大切にしてほしい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・外国籍児童が増えていく中で、児童はもとより保護者に対しても、日本の生活やきまり、学校のルールなどを理解してもらうことが大切である。
- ・校内施設安全点検では、地域住民としての視点での確かな点検ができた。点検後、危険箇所の改善を行い、学校環境を整備することができている。
- ・学校運営協議会の開催日程を学校行事（オープンスクール等）に合わせて実施し、学校での児童の様子を参観できるように考えていきたい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
安全安心な学校づくりを基盤にした豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路付近で行われている工場建設工事の状況について、学校運営協議会等で会社関係者から話を聞き、児童・生徒の安全が確保されるよう、さらなる取組を進める必要がある。通学路の見直しや見守り強化も、必要に応じて検討する。防犯カメラや防犯灯の設置等、必要に応じて要望していくことも大切である。</li> <li>・地域、中学校・育成会との連携をさらに進めていくとよい。</li> <li>・防災教育について、校内の職員研修に学校運営協議会委員が参加して、教職員と地域の方が一緒になって避難訓練の在り方や避難所運営について協議できた。今後も連携して取り組んでいきたい。</li> </ul>
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会主催事業の夏休み地域学習会は参加者が多く、今年度保護者・児童から好評であったが、来年度アンケート等を取って意見が聞き、今後の参考にした。</li> <li>・夏休み地域学習会に幅広くたくさんの児童が参加できるよう、工夫するとよい（会場、送迎等）。また、講師謝金の金額を抑えて、児童の活動を充実させるための消耗品費等に充当するとよい。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀小学校

校長 畑中さとる



## 1 学校教育目標等

未来を切り拓き、夢をかなえる力の育成 ～地域とともに こころ豊かに たくましく～  
めざす児童像 にこにこ笑顔で あいさつができる子に  
しっかり考え 主体的に 進んで学ぶ子に  
きたえよう 心も体もしなやかで 強い子に

## 2 今年度の重点目標

### 1 【学び続ける自分づくり】

新学習指導要領に対応した基礎学力・生きて働く力の育成・主体的で対話的な授業の創造

### 2 【ふるさとに学びつなぐ自分づくり】

西紀っ子のキャリア形成を図る「ふるさと学習」

### 3 【たくましい自分づくり】

自らの生活を安心・安全で豊かにする主体的な「危険予測・回避・解決能力」の育成

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A:よく達成できた B:達成できた C:やや課題が残る D:改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	全国・市学力学習状況調査や生活習慣状況調査結果をふまえ、授業力向上にむけた授業研究、モジュールでの短時間学習・基礎基本定着に努めた。
	外国語・外国語活動の充実	A	児童・教師の課題をもとに、児童の伝え合う力を育てる外国語の授業づくりの実践研究を進め、全学級で様々な連携方法の授業公開ができた。
	個に応じた指導	B	授業中における一人学びの時間を確保し、学び合い伝え合う学習とともに個に応じた指導の徹底に努めた。
生徒指導	いじめを許さない学校 不登校の改善	B	いじめ防止基本方針についての共通理解と組織的な早期発見早期対応を行った。不登校対応は、S S Wとのケース会議で1名に改善が見られた。
	基本的生活習慣の確立	B	児童会を中心にすえ、児童の主体的な学校生活改善を図り、後期はみんなで守るテレビ・インターネット・ゲーム3か条の改正を児童とともにいった。
	多様性を認め合う学校	B	さまざまな課題を持つ児童がおり、それぞれの特性や実態の把握を行い、合理的配慮の積極的推進や個性の伸長に努めた。
安全管理 健康管理	安全指導、事故防止	C	スポーツ振興センターにかかるけがは10件だが、総合遊具による重大事故があった。職員の意識向上と組織ワークに継続して取り組む必要がある。
	登下校の安全	B	登下校指導の定例化、育友会や里づくり振興会との連携による下校指導、月1回の全校終会後の地区会議等、通学路の安全指導に努めた。
	職員の健康管理、業務改善	B	定時退勤励行の呼びかけと共に、月1回の学校労働安全衛生委員会で働き方改革につながる具体的な業務改善を図り、退勤時刻は早くなった。
保護者地域 との連携	地域とともにある学校	A	多くの外部講師の協力を得て、農業生産活動や環境体験学習を充実することができ、各々の児童の地域行事への積極的な参加に結びついた。
	丹波篠山の教育推進	A	カリキュラムマネジメントによる教科横断的な「ふるさと西紀・篠山」を学ぶ学習活動が、地域の協力を得て展開することができている。
	情報の発信	A	H P、学校だより(月1回)、コミスクだより(学期1回)全戸配布等により教育活動を広く知らせるよう努めている。



#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・個々の児童に3つの項目で「自分づくり」をまとめられ、学校全体として取り組まれ、成果を上げられた。児童にも意識させたい。そのために、評価項目について重点目標に対する個々の取組が見えるようにすれば、もっとわかりやすくなると思う。
- ・「学び続ける自分づくり」の中の「主体的で対話的な授業の創造」は、授業を参観してみて、良く出来ているのではと思う。
- ・「ふるさと学習」で、子ども達に将来も「西紀」を愛する心が育ってくれることを望む。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・児童にとって学校に通うことが楽しい事は、一番重要なこと。友だちや先生が好きな証拠であり、「魅力ある学校づくり」に取り組まれ、成果を上げていると考える。
- ・学校運営協議会では、学期毎に地域と学校・保護者が一体となって子どもを育てる取組を進め成果が上がっていると感じる。ふるさと学習も、西紀の自然や歴史・人にふれる体験を多く持ち、教科のねらいももって取り組まれており、一層「西紀」に興味や愛着をと願っている。栗柄の「丹波木綿」は兵庫県伝統工芸品であり、是非ふるさと学習の中に位置づけてほしい。
- ・今後さらに児童数や家庭数が減少し、複式学級になるのか。今は一人一人の活躍が見られ、ふれあう温かさを感じられて少人数が「良さ」に転じていると感じているが、今以上の減少はデメリットが大きくないか、不安でもある。西紀3小の統合の話がでてこないか。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合う活動を授業に計画的に取り入れたり、「めあて→ふりかえり」のノート指導をされたり工夫がある。基礎学習が身についたり自分が思ったことを話せたりしていることは、児童の自己評価のポイントが上がっていることや、参観した教室での発表をみんな活発に出来ているところから成果を感じられた。</li> <li>・授業参観、運動会、学習発表会を見る度、色々な工夫があり、児童に学習指導が行き届いていると感じた。</li> <li>・特に若い先生には、型にはまらない「教え方の個性」があってもよいと思う。</li> <li>・自分のために勉強する子が育つよう、さらに取組を進めてほしい。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内の雰囲気良く授業が楽しそうに思えた。笑顔で学習に取り組んでいる。</li> <li>・毎日楽しく学校に通っている子が多いとアンケートに回答されていたが、不登校傾向の児童があるとも聞く。何か学校へ行こうと思えるきっかけがあればと思う。</li> <li>・世間ではインターネットをめぐる問題が様々あると聞くが、西紀に住んでいても無関係ではない。新しいルールを児童会の意見も聞きながら作成されたので、さらに来年度は保護者も各家庭の足並みがそろそろよう取組を進めるとよい。</li> <li>・気持ちの良いあいさつを笑顔でできる子がいる。こんなあいさつをもらおうと、小学校が身近に感じる。</li> <li>・自己肯定感をしっかりともち、自分の考えを堂々と発言できる子を育ててほしい。</li> </ul>
安全管理 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に囲まれた良き環境である。学校では、子ども達も素直な子が多いと感じる。あいさつ横断幕も掲げながら、笑顔であいさつを交わす西紀っ子を育ててほしい。</li> <li>・地域防災訓練は毎年1月の阪神淡路大震災の日に行っている。冬に出来ることは限られてはいるが、毎年地域と共に防災をテーマに取り組むことは大切である。訓練なので、何年かサイクルで同じ事をしてほしいと思う。</li> <li>・今年度も通学途中や学校内で大きな事故やトラブルがなく、ホッとしている。子ども達自身が安全に気をつける力を育てていきたい。</li> </ul>
保護者地域 との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習を計画的に行い、学校評価アンケートではふるさとに親しんでいる子も増えていたり、地域のひととの関わりも増えていたり、良く取組が進んでいる。</li> <li>・ふるさと学習、地域校外学習、その内容を全戸に知らせる学校だより等、良く連携を図っていると思う。しかし家庭数が減少し、昼間働いて不在の家庭も多く、連携（協力を得ること）が難しくなっていると思う。</li> <li>・保護者・地域との連携については、学校としてよく考えられ、取り組まれている。特に「ふるさと朝会」や「西紀ドリ一米s」「黒豆栽培」など多くの事に取り組まれている。</li> </ul>

令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀小学校  
校長 本田 毅



1 学校教育目標等

ふるさとに夢や誇りを持って 未来の創り手となる北っ子の育成

2 今年度の重点目標

- 1 基礎基本の確実な定着と活用力・表現力・思考力の向上
- 2 豊かな心の育成といじめを許さない集団づくり
- 3 たくましく生きるための体力・気力・運動能力の向上
- 4 地域とともにある学校づくりと伝統文化を生かしたふるさと教育の推進

3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力向上	○基礎基本の確実な定着と活用力・表現力・思考力の向上	A	学力調査では、少人数のため学校全体としての特徴や傾向をつかむことは難しいが、全体としては、目標値と同程度または上回り概ね良好であった。これはこれまで積み上げてきた北っ子検定やスキルタイム、がんばりタイムの成果である。 北っ子式算数の「ひとり学び(家庭での予習)4年生以上90%実施の一層の充実を図り、家庭学習の習慣化を推進する。
	○算数科を中心とした授業研究と新教育課程に向けての校内研修の充実	B	算数科(北っ子式算数)の授業研究を実施し、少人数の特性を生かした授業改善を図ってきた。また、伝え合いタイムの時間を設定し、有効な話し合い活動を通して深い学びに導いた。 プログラミング教育等、新教育課程に向けての研修を実施し、教職員の資質向上を図った。
生徒指導の充実	○豊かな心の育成といじめを許さない集団づくり	A	児童一人ひとりの居場所のある学級・学校生活を送れるよう、月2回の実態把握交流、校内生徒指導委員会の定例化、関係機関との連携を図ってきた。学校地域一体型の行事等を通して草山地域の子どもを見守る体制を確立。また、学級担任が児童とじっくりと話を聞く機会(子ども個人懇談)を設け、内面理解を心がけた。
	○あいさつ運動の推進	A	先生や地域の人に対してのあいさつはよくできている(94%)が、友だち同士(97%)や家族とのあいさつ(91%)など、どこでも、誰とでも気持ちの良い挨拶ができる北っ子の育成を推進。
地域とともにある学校づくり	○地域一体型の行事の充実	A	ふれあい運動会、ふれあい活動あまごつかみ大会・楽市・楽座、北っ子広場等、学校地域一体型の行事を計画、準備の段階から学校と保護者・地域が一体となって取り組むことにより、草山地域の一層の活性化につながった。
	○ふるさと教育の充実	A	草山地域の豊かな自然、恵まれた自然、恵まれた地域の教育力を活用したふるさと学習を通して郷土愛・愛校心が育めた。 本年度は「炭焼き体験」「こんなやく作り」「復活ビーンズサワー復活大作戦」として、地域の方々と協働して「ふるさと草山」の良さを広く情報発信することができた。
業務改善	○勤務時間の適正化	B	組織的にタイムマネジメントの確立に努め、効率的な業務の遂行をめざしている。ノー会議デー(水)については、定着しているが、定時退勤日(金)については、複式学級担任等は退勤時刻が遅くなることもある。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校、少人数、複式学級の特性を生かし、児童一人ひとりをしっかり理解した上で適切な指導がなされており、子どもたちは落ち着いて学習できている。</li> <li>・本年度も、菊炭づくりや、春日神社の学習、中井権次一統の彫刻の発表、ビーンズサワーの商品化、こんなやくづくり体験など、地域と連携しながら、地域の伝統文化に関する学習に取り組み先人の思いや伝統継承の大切さをしっかりと学んでいる。</li> <li>・本年度は地域一体型の行事への地域住民の方々の参加がととも増えていた、嬉しいことである。また、地域行事への子どもたちの参加によりお互いが得るものが多い。今後も地域コミュニティの一層の活性化のために学校と地域が連携を深め取り組んでほしい。</li> <li>・進んで読書をする子どもを育てていきたい。読書は、思考力や想像力を高める、親も一緒に読書をする習慣を身につけてほしい。</li> <li>・「あいさつ標語」と「草山の魅力標語」の募集を行い、学校・家庭・地域が一つになって草山地域の魅力発信とあいさつ運動として実施することができた。</li> </ul>
---

(2) 総合的な評価(意見・感想)

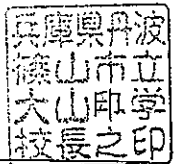
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会での伝統文化の発表や、JAバンク環境学習発表大会でも、堂々と立派な発表ができていた。</li> <li>・伝統的体育行事(体育発表会38年)(なわとび記録会44年)は、子どもたちが自信をつけるとても良い機会であり、特色ある活動でもあり、草山地域の自慢でもある。今後も是非継続していただきたい。</li> <li>・草山地域に子どもの元気な声がかかることが地域の活性化につながっている。学校地域一体型の行事(ふれあい運動会や北っ子広場)は地域住民も子どもたちも楽しみにしている。これからも学校と地域が一つになって子どもたちのため、草山地域のために取り組んでいただきたい。</li> </ul>
--

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力向上	<p>一昨年から実施している「がんばりタイム」は、学習に取り組む姿勢が良くなってきた。中には、自己肯定感ややる気を出せない子がいるが、家庭で褒められていないのではないかと感じた。問題が解けたときの喜びや、達成感、成就感をもっともっと体験させたい。</p> <p>児童アンケートの結果、わからないことをたずねることに抵抗を感じる児童が少しいる。わからないことをわからないと言える学級づくりを進めていただきたい。</p> <p>複式学級となり、教科によって担任の先生以外と学習する機会があるが、先生が代わっても、落ち着いて学習することができている。中学校では教科担任制となるため、このような経験は大切である。</p>
生徒指導の充実	<p>子どもたちの元気の良いあいさつは、地域の元気にも繋がっている。「あいさつ日本一の草山地域」は地域の方々もよく意識をいただいている。今後も地域と一体となった「あいさつ運動」を続けることは、子どもたちの姿を地域の方々に見守って頂くこととなり、「地域の子」は「地域で育む」に繋がることを期待する。</p> <p>保護者、児童ともに「睡眠時間が充分にとれていない」が22%あった。スマホやタブレットでゲームや動画を見ていることが原因のようである。学校、家庭が協力して毎年情報モラル・ルール徹底を図る指導を続けて行く。</p>
地域とともにある学校づくり	<p>「地域について進んで学習し、ふるさとを大切に育っているか」というアンケートは、児童、保護者ともに、約90%が「はい」と回答している。郷土愛を育み、ふるさと草山を誇りに思う教育の充実を今後とも大切にしていきたい。</p> <p>学習発表会でも「つなぐ～伝統、そして平和～」と題して6年生が、春日神社や中井権次一統の彫刻のことを調べ、この草山の伝統をしっかりと自分たちがつなぐ発表をしました。</p> <p>伝統文化の学びの充実事業全県発表会では「地域の子としての育み～知ろう！伝えよう！創ろう！ふるさと草山～」テーマでふるさと学習の成果をパネルにして展示発表しました。</p> <p>また、JAバンク環境チャレンジ発表大会では、「ふるさと草山げんきプロジェクト～つなごう 人・自然・伝統～」というテーマで「楽市・楽座」「北っ子広場」「炭焼き体験」「ビーンズサワー復活大作戦」「こんなやくづくり体験」など、草山地域の方々と共にやっている活動の様子を発表しました。当日は保護者だけでなく、草山地域の方々9名が応援にかけつけていただき、優秀賞と特別賞に選ばれました。</p> <p>「ふれあい運動会」「北っ子広場」「楽市・楽座」は「地域とともにある学校」の原点になる行事であるので、これからも継続していくことが大切である。</p>
業務改善	<p>子どもと向き合う、触れ合う時間を最優先に、会議の効率化や行事等の準備の工夫を一層図る。教材研究の時間の確保、学習スタイルの確立は、学力向上に繋がる。</p> <p>学校教育は、学校だけ、教師だけで行うものではなく、地域とともにある学校、「チーム西紀北・草山」をめざす。</p>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立大山小学校  
校長 小田 環



## 1 学校教育目標等

自ら学び 心豊かで たくましい 児童の育成  
めざす児童像 進んで学ぶ子ども  
やさしい子ども  
たくましい子ども

## 2 今年度の重点目標

- ・児童が生涯にわたり自ら学び続ける態度を身に付ける児童を育成する。
- ① 基礎的な知識・技能の定着と、それらを活用し問題を解決する力を育む。
- ② 自分の考え、意見をもち、学び合うことにより自己を高め自発的に行動する。
- ③ 学校での学びを活かした家庭学習の定着を図り、主体的な学習習慣の確立に努める。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	予習学習を活かした授業改善を行い、学び合える時間を多くとっている。また家庭学習に「けテぶれ」を取入れることで一人一人自分に合った学習ができるようになってきている。
	地域素材を生かした教育展開	A	地域人材、地域素材の活用に継続的に取り組んでいる。新しくクラブ活動においても地域の方に関わっていただき取り組めた。
	キャリア教育の視点	A	各行事等においてキャリア教育の視点に立つという意識をもち、取組を進めた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	A	今後も児童が主体的・自主的に活動できるように学校生活全般を通じて教職員の関わり方を工夫していく。
	組織的な取り組みの充実	A	学団会議・生徒指導委員会の定期開催、いじめアンケート・子ども個人懇談の実施により児童理解に努めるとともに、組織的な取組の充実により未然防止に努めている。
特別支援教育	特別支援教育の理解と啓発	B	児童の特性を共通理解し、個性の伸長を図るよう取り組んでいる。保護者への啓発については、課題が残る。今後、PTA行事の中で実施できるように計画する。
安全管理 健康管理	安全指導、事故防止	A	休み時間の見守り体制の確立と教育課程の編成の工夫により怪我の未然防止に努めることができた。地域見守り隊による下校指導に加え、地域の方々による付き添い下校の体制整備を行うことができた。
地域連携	地域とともにある学校	A	地域の外部講師を積極的に招聘し、効果的な学習を行うことができた。地域のアドバイザーにより学校と地域とをつなぐカリキュラム（学びの地図）の構築ができた。
	情報の発信	A	毎月の学校だよりや学級通信、新聞掲載等で本校の教育活動を広く伝えることができた。また、HPの更新をタイムリーに行うことができた。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

○学校経営方針及び重点目標は、適切に設定されている。  
 地域の一組織、一員として地域と連携した学校運営が求められる時代となっていることを互いに理解し、教育や子どもにかかる課題に対して連携体制の強化に努めていきましょう。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

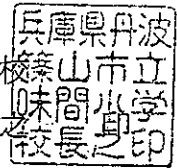
- ・全体的に児童との距離等を程良く保ちながら行き届いた指導をしていただいていると思う。
- ・地域とのふれあいを日頃からよくしていただいております、子どもたちから気軽にやさしい言葉で接してくるので地域に活気が生まれてうれしい。今後もよろしくお願ひしたい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は不易な教育的価値である「知・徳・体」を育むとともに、学校生活の大半を占めています。授業は楽しく分かることが大事です。それに向けて先生方が頑張っておられるのが分かります。</li> <li>・取り組んでいる内容や課題が多くなってきている中で、内容をよく検討され、精選してこられている。清掃時間を減らした取組も良いと思います。</li> <li>・教育内容が変わりつつあるようですが、校長先生、教頭先生のリーダーシップのもと、適切な対応がなされることを期待します。</li> <li>・一人一人の子どもに必要な力をつけておられる様子がうれしいです。</li> <li>・先生方が自信を持って授業に臨まれており、子どもたちがとても落ち着いて授業に臨んでいるのがうれしい。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強もですが、世間で話題になるいじめの問題も気になるところです。先生方は子どもたちとの適切な距離感を保ちながら非常に手厚い指導を重ねておられますが、今後ともよろしくお願ひします。</li> <li>・今回の学校自己評価において達成率が良かった項目についても今後も達成率の維持ができるように努めていただきたいと思います。</li> <li>・子どもたちがすくすくと育っていけるように、日々努力していただきありがとうございます。</li> <li>・子どもでも成人でも、「自分が好き」「役に立っている」と思える感情がやる気のベースと考えます。しっかりとお互いにほめあってください。</li> </ul>
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に子ども一人一人の様子をよく見て指導されている様子がうかがえます。</li> <li>・一人一人の子どもたちがどの子も楽しく学校生活を送れているのではないかと思います。</li> <li>・先生方のご指導のもと、一人一人の児童の成長がよくわかる。今後も引き続き子どもたち一人一人に寄り添った指導をしてほしい。</li> <li>・授業や学校行事での子どもたちへの関わり方がとてもあたたかくてうれしい。</li> <li>・他校と比べて児童数が少ないので異学年合同授業や他校との交流など、多様な個性と触れ合う機会の設定を引き続きお願ひしたい。</li> </ul>
安全管理 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全のための危機管理に関する事項について学校自己評価が下がっているが子どもたちが安心・安全に登校できることが大前提となるので、学校自己評価が下がった分析をして改善策の構築をお願いします。</li> <li>・問題発生時の対応を今後もよろしくお願ひします。</li> <li>・携帯電話やインターネット等の情報機器については、子どもたちとはこれからきってもきれないツールとなっていく。危険性も併せて啓発しながら、うまく活用していけるようにしていくことが大切である。</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容や課題がずいぶんと増えています。容れ物は変わっていないので、精選や中止も考えないとあふれてしまいます。保護者や地域の理解を得ながら検討してください。</li> <li>・ふるさと教育の推進には、人材や教材を知る時間も必要だと思いますが、組織の力でよく対応されていると思います。</li> <li>・地域の歴史、文化、特産物等を子どもたちに継承していくことが1年間の学習を通してできていると思う。</li> <li>・学校の記事がよく新聞に取り上げられているので、興味を持って読んでいますし、学校のことがよくわかってうれしい。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

兵庫県丹波市立味間小学校  
 校長 津瀬 雅之



## 1 学校教育目標等

～笑顔いっぱい 夢いっぱい～ ・未来への道を切り拓く力を持つ児童の育成 ・ふるさと味間を愛し誇りに思う児童の育成
--

## 2 今年度の重点目標

・一人一人の主体的な学びを高める授業を創造し、確かな学力の育成 ・質の高い学校安全体制の整備
---

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	アンケート結果から、児童の9割以上が、授業は「よく分かる」「だいたいよく分かる」と答えている。基礎基本の力を付けるため、2学期から始めた朝のスキルタイムでの計算を継続していく。さらに来年度は、漢字等にも取り組んでいく。また、教員間で定期的に授業を参観し分かりやすい授業になるよう指導力の向上を図る。
	学習規律	C	学習のルールとして、「3つの約束」を全校で共有して取り組んできた。①チャイムで授業スタート。②しゃべらずに人の話を最後まで聞く。③授業前に学習の用意をする。という内容だが、学年間に差が見られる。振り返りを定期的に行い、指導につなげていく。
生徒指導	いじめを許さない学校	B	日常観察を大切にして、未然防止に心がけた。また、定期的なアンケートの実施や生徒指導委員会等で児童の実態を把握し、早期発見に努めてきた。今後も、「いじめ対応マニュアル」に沿って、保護者とも連携しながらいじめを見逃さない組織体制を構築していく。
	基本的生活習慣の確立	B	あいさつ等について繰り返し指導してきた結果、7割以上の児童が基本的な習慣が身についていると思っている。さらに、学校生活が充実するよう「早寝、早起き、朝ごはん」を保護者にも啓発していく。
保護者 地域との連携	地域とともにある学校	A	農作業支援者、丹波篠山茶生産組合等の協力を得て、ふるさと教育に積極的に取り組んだ。今後もふれあいや体験等を通してふるさと意識の醸成を図っていく。
	情報の発信	B	学校だより、学校ホームページ、保健だよりや学年通信などにより、学校教育活動を広く知らせたり、児童の健康や食生活について啓発したりすることができた。
安全管理	安全・安心な学校	B	廊下や階段を走ったり、ポケットに手を入れて歩いたりするなど、まだまだ児童の安全意識は高いとはいえない。遊具の正しい使い方や校舎内での過ごし方などについても、機会を見つけて指導してきた。今後も繰り返し指導をするとともに、指導内容等を積極的に保護者にも知らせていきたい。また、定期的な安全点検や不審者対応訓練、救急法講習等により、教職員の危機管理意識を高めてきた。今後も、「学校危機管理マニュアル」に基づき、定期的に研修や訓練を実施し、保護者・地域に信頼される学校にしていく。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

○妥当である。  
・来年度も重点目標について努力してほしい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

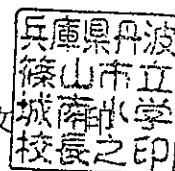
○妥当である。  
・保護者や児童のアンケートからみても、良好ではないか。問題が出れば、一つ一つ解決していくしかない。  
・「報告・連絡・相談」を大事にしてほしい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	○妥当である。 ・学習のルール「3つの約束」で、できていないところを把握しているか。 ⇒人の話を最後まで聞くことができていない。継続して指導していく。 ・地域で集まったときも、よくしゃべる子がいると、その周りの子もしゃべってしまう。 ・漢字ドリル、計算ドリルの答えを子どもに渡す必要があるのか。 ⇒「主体的に学ぶ」ことが大切。解答したことやわからないことをそのままにするのではなく、自分で確かめるよう指導している。
生徒指導	○妥当である。 ・いじめはあるのか。 ⇒残念ながら、ある。日常の観察や定期的なアンケートで未然防止、早期発見に努めている。 ・「いじめ」の早期発見について、アンケートに頼らず、これからも日常観察を大切にしてほしい。 ・自分の経験から大人に見えないようにいじめをしている。見えるところだけで判断せずに、見えないところも見るように心がけてほしい。 ⇒休み時間など、子どもたちと一緒に遊びながら見守っている。 ・集団登校で、遅れて来る子は決まっている。安全旗を持つ子が遅れたりしている。 ・低学年の子が、登校途中で止まってしまう、高学年が困っている。 ⇒遅れている子があつたら、学校に知らせてほしい。教職員が対応する。
保護者地域 との連携	○妥当である。 ・地域行事への参加は、低学年の子が多い。高学年の子の参加も増えたら嬉しいが、今の子どもは、習い事や社会体育が多く忙しい。 ・地域の文化に触れ、教養が高まるので、地域行事を減らさないようにしてほしい。 ・3年生が寒茶体験のアンケートで、寒茶は味が違うという意見が出ていて嬉しかった。 ⇒学習発表会でも、3年生が「お茶」のことについて発表した。 ⇒市バスが2台しかないため、学年が一度に移動できない。また、確保が難しく地域学習に十分時間がとれないこともある。
安全管理	○妥当である。 ・たくさんの保護者が来校しているが、不審者侵入など、こわいことはないか。 ⇒今年度から、教職員の駐車場入り口門も、児童が登校したら閉門している。また、保護者が迎えに来られても子どもだけで駐車場に入らないように指導している。 ・運動会など、たくさん集まるときは、駐車場が少ない。 ・住吉台の通学路は、グリーンベルトを設置することができた。来年度は、集合場所から公園、集会場にもグリーンベルトを設置する予定。

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波市立城南小学校  
校長 中野 龍文



## 1 学校教育目標等

『夢や希望をもち、個が輝く楽しい学校づくり』 ～世界に通じる国際人の育成～

## 2 今年度の重点目標

- ☆ 活動意欲を高めよう・・・夢や目標をもたせたり、学校生活で誉める・認める機会を多くし、やる気を持たせる指導に努める。
- ☆ チャレンジ精神を高めよう・・・各行事や総合等で、自分の良さを発見できる機会をつくり自信や達成感を感じさせる指導に努める。
- ☆ 規範意識を高めよう・・・校内のきまりを守り、自分で考えて行動できるようにする。相手の立場に立って考えられる心を育てたり、明るく元気にあいさつができる習慣を身につける指導に努める。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導の充実	◇学び合い活動を取り入れた授業の確立と推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効性のあるグループやペアの学び合いに向け校内研修での視点を決め、研究を深めた。</li> <li>・めあて提示の工夫を通して「学び合い活動のなかでわかるできる児童の育成」を柱に実践した。</li> </ul>
	◇基礎学力の着実な定着	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査等の課題から朝スキルを重点に補充学習・反復学習を取り入れて進めた。</li> <li>・話し合い活動や係活動の工夫や充実を図る。</li> <li>・複数指導における役割分担や少人数指導のあり方について検討の必要がある。</li> </ul>
	◇キャリア教育の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアノート作成・記入・活用は各学年に定着した。</li> <li>・指導者が常に児童のキャリア育成の視点を持つため、学期ごとのふり返り交流をもつ。</li> </ul>
生徒指導の充実	◇学習規律・基本的な生活習慣の定着	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師だけでなく児童会の自主・自律的な取組で安全・安心な学校生活ができた。</li> <li>・学級通信に代わる保護者への啓発や協力獲得策をPTAと共に考え、校外の生活改善を図る。</li> </ul>
	◇組織的な取組の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速ないじめ認知と組織対応でいじめ解消100%を達成した。また、不登校傾向や特別な支援を必要とする児童への校内ケース会議からの対応など、組織で分析・対策する形ができた。</li> </ul>
保護者・地域との連携	◇地域とともにある学校づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「城南っ子応援団」のふるさと学習は定着したが、つけたい力や系統性を検証し今後につなぐ。</li> <li>・クラブ活動の講師を地域住民の方に担当していただき、日本文化を共に学べる機会となった。</li> </ul>
	◇安全・安心な学校づくりの推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネームストラップや避難訓練に力を入れたが次年度は児童の安全意識や危険予測の指導にさらに取り組む。</li> </ul>
学校経営	◇業務改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や学習発表会、学年の取組等の目的やねらいを明確にし、短縮を図って取組を進めた。</li> <li>・業務改善に関わる取組を委員会で検討し進めることにより、退勤時刻が早くなった。</li> </ul>



#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・力を入れて取り組まれた様子が伝わってきます。「継続は力なり」です。一層の充実と今後に期待します。
- ・各行事や総合等で自信や達成感が大きく子どもを成長させたと思います。
- ・保護者・地域の連携は、仕事のある人たちに時間の制約があるため、難しいものがありなかなかできない部分（学校への協力など）があるのも仕方ないと考えます。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・先生方は、本当に多忙な毎日、一言では言い尽くせないご苦労も多い中で、子どもたちのご指導に全力を尽くしてもらっていることに常に感謝です。働き方改革等も言われている中ですが子どもにかえていくこと、子どもにとって必要なことは最優先、このことは、いつの時代でも大切にして考えていかないとはいけませんね。
- ・保護者・地域の協力が少なくなかったと思う。
- ・市内でも優秀なパフォーマンスだと思います。
- ・児童会活動の生活目標の取り組みは日々の学校生活では大切なことです。
- ・こころ豊かで思いやりのある行動が育っていないように思う。学校で教えてもらっていることが日々の生活につながっていない。
- ・自分だけが良かったら良い」子が増えているように思う。学校の評価だけを意識している高学年が多いのが残念。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がけ次第でやる気につながっていきます。一人一人のよいところを見つけ、やる気へとつないでもらっていることに感謝です。</li> <li>・しっかりと取組を重ねてもらっているように思います。</li> <li>・低学年の基礎基本となる学習の徹底が、次学年への学習理解に大いにつながっていくものなので、細やかな関わり・指導で学力の定着が図れるよう願います。</li> <li>・高学年は、自主学習に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・本を読む機会を増やす方法があればと思います。</li> </ul>
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外でのあいさつがもう少しできるようになればと思います。</li> <li>・あいさつは地域全体で取り組むことが大事なことです。高学年の率先したあいさつは、低学年のお手本になるので、是非実行してほしいものです。</li> <li>・学校ではあいさつができていないが、地域ではできていない。自分が評価されるところは良い態度で過ごしているが、日常的にできていないのが残念。</li> <li>・見守りなど、保護者・地域が子どもとふれあう機会を増やすことで顔見知りになってあいさつも増えてくると思う。そんな取組を計画していきたい。</li> <li>・スマホやネットのルールは、もっと家庭や地域に周知していきたい。大人より子どもの方がよく使っているが、大人の力が必要なこともある。</li> </ul>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、学年だよりが昨年に比べ多く発行されたように思います。子どもをつなぐための大事なものと受け止めていますので、今後もよろしく願います。また、学校だよりの配布をいただき、学校の様子がよくわかり、一層学校への関心が深まり、いつも楽しみにしています。</li> <li>・PTAとして、もっと地域・小学校の連携ができるようになって行けたらと思った。通学時や放課後など、協力を増していければと思う。</li> <li>・都市交流で都会に育った子どもたちが、篠山に来て親子して田植えを楽しみ（真南条地区の田植え）自然にふれあう生き物観察や雑草の天ぷらを食べる時間は、何物にも代えがたい至福の時を親子と地域が共有した瞬間と思います。小学校もさつまいも、黒大豆等々で自然に学ぶ姿をほほえましく思います。</li> <li>・今年はアグリofのサツマイモがイノシシにやられました。地域の方の畑の芋を掘らしていただいたこと感謝します。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立古市小学校  
校長 荻野 孝幸



## 1 学校教育目標等

<こころ豊かでたくましく、自ら考え行動する子>  
安全・安心な学校づくりを推進し、こころ豊かでたくましく自立した児童を育む。

## 2 今年度の重点目標

- (1) 安全・安心で信頼される学校づくり
- (2) 確かな学力の定着
- (3) 特別支援教育の充実
- (4) 心の教育（人権教育・道徳教育・国際理解教育）の充実
- (5) 「ふるさと教育」の推進

## 3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校経営 (安全・安心で 信頼される学 校づくり)	・安全教育の充実	A	児童の危険回避能力の向上をめざした安全教育を全学年実施した。校区内安全マップづくり等、児童の主體的な安全学習に取り組めた。(アンケート結果：保護者93%、児童84%、教員87% 以下同様)
	・安心して学べる楽しい学校・学級づくり	A	自尊感情を育む学級経営により、学校、学級とも活気があり明るく楽しいという評価が高い。(保88%、児95%)。
	・組織活動、保護者や地域との連携	B	保護者・地域と連携し、安全点検、通学路通行自粛ピラ配布や地区内安全点検等に取り組んだ。(保87%、教83%)
学習指導 学力向上	・分かりやすい授業	B	学習規律の定着と指導方法の工夫改善を図り、分かりやすい授業づくりに努めた。(保88%、児88%、教80%)
	・個に応じた指導	B	少人数指導、複数指導等により個に応じた学習を行い、基礎基本の定着を図った。(保83%、教80%)
	・学習習慣の確立	B	家庭学習の習慣化を図った。(保75%、児88%、教83%) 「読書の日」の設定等読書指導を進めた。(児75%、保62%、教78%)
生徒指導	・問題行動への適切な対応	A	いじめ、不登校等問題行動には、迅速な組織的対応、関係機関との連携、情報の共有化に努めた。生徒指導委員会(毎月)やいじめアンケート(年間3回)を実施し、いじめの疑いを含め、事案の解消に努めた。
	・自立心、規範意識	B	「あいさつ、あつまり、あとしまつ」を中心に凡事徹底と図った。落ち着いた生活ができているが、あいさつは継続して取り組む必要がある。(保75%、児78%、教73%)
	・家庭と連携	A	日頃から家庭との情報共有を図るとともに指導上配慮を要する事項については、早急に家庭に連絡し、対応について連携を図った。(保85%、教85%)

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

① 安全・安心で信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>古市小の最重要課題である「安全な学校づくり」は、学校教育の基盤である。学校は、全教職員やPTA会員等でしっかり取り組んでいただいている。今後とも取組を進めてほしい。</li> </ul>
② 確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの学年も、落ち着いて授業に参加している児童が多い。教室や廊下もよく整理されていて学習環境整えられていると思う。保護者や児童のアンケートでも「わかりやすい授業」や「基礎学力の定着」の項目で良い評価が得られているので、日頃の実績の成果が出ているのだと思う。</li> </ul>
③ 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童を大切に指導されていることが良く伝わった。特別支援学級の児童がのびのびと授業を受けている様子を見て安心した。</li> </ul>
④ 心の教育（人権教育・道徳・国際理解教育）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導をしていただいている。お互いを認め合える心豊かな子どもに、家庭や地域もいっしょになって育てていかなければと思う。</li> </ul>
⑤ 「ふるさと教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童のアンケートの「ふるさとが好き」の項目で高い評価がでている。児童がふるさとに関心をもってくれていることがありがたい。今後も古市地区の特色を生かして地域を誇りに思う子の育成に取り組んでほしい。</li> </ul>

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食や睡眠は子どもの体づくりの根幹となる大切なことである。今後も保護者にしっかりと周知しながら連携を深めて取り組んでほしい。</li> <li>児童や保護者のアンケートではどの項目も概ね高い評価が出ていて良いことだと思うが、中には低い評価をつけている児童や保護者もいる。学校はそのような児童・保護者にも目を向けて適切な対応をお願いしたい。</li> <li>帰宅後に学校に来て運動場で遊んでいる姿をほとんど見かけない。集団で遊ぶことがほとんどなくなったことが、将来社会人となる上で心配である。安全な環境を保持しながらも多人数で遊ぶ機会を持てれば良いと思う。</li> </ul>
--

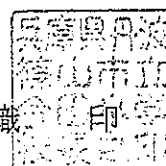
##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校経営 (安全・安心な学校づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員やPTAによる安全点検等により、安全な教育環境が保たれている。今後も気を緩めず、安全意識をさらに高めてほしい。</li> <li>どの学級も明るい雰囲気活気がありうれしい。</li> <li>通学路の安全確保については、今後も保護者、地域とともに取り組んでいきたい。</li> </ul>
学習指導 学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童や保護者のアンケートからも「わかりやすい授業」「基礎学力の定着」については高い評価がでている。今後もさらに指導方法の工夫改善で学力の定着・向上に努めてほしい。</li> <li>家庭での読書習慣については課題が多いが、学校では読書活動によく取り組んでいただいていると思う。最近ではタブレット等でも物語を読んだり学習したりしているので、ゲームをして遊んでいると勘違いしないように留意したい。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ事案の対応については、児童へのアンケートや聞き取り、保護者との連携等組織をあげて迅速に対応していただいている。いじめや不登校などの問題行動はその芽が小さいうちに解決することが大切である。今後も保護者・地域・関係機関と連携を深めながら取り組んでほしい。</li> <li>元気にあいさつしてくれる子が増えてきているように感じる。学校や児童会での取組の成果が出ているのだと思う。学校外では、あいさつをよくする地区としない地区の差がある。子どもばかりに強要するのではなく、まず大人からしっかりあいさつをしていくことが大切である。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立今田小学校

校長 堀 香 織



## 1 学校教育目標等

学校教育目標

「ふるさと今田を誇りに思い、自立して未来に挑戦する今田っ子を育成する」

目指す児童像

「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」「学ぶ意欲」を持つ子ども ～自然・文化・人に学ぶ～

## 2 今年度の重点目標

1. 学習習慣の確立と基礎学力の定着により、学力の向上を図る。「読み取ったことをもとに自分の考えや思いを伝え合う子の育成」をテーマに読解力を伸ばす学習指導の研究に取り組む。
2. 組織的できめ細やかな生徒指導体制を確立し、個に応じた適切な支援をする等子どもの心に寄り添い、いきいきと生活できる学校づくりを進める。
3. コミュニティスクール事業を核に、職員・保護者・地域住民が連携し、自然・文化・人を活用した今田小学校ならではの特色ある教育を推進する。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	学習習慣の確立と基礎学力の定着	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勉強がわかる」と評価した児童が85%である。新学習システムの活用、個に応じた指導等で学ぶ喜びをこれからも体感できるようにしていく。</li> <li>・学習習慣を確立するための課題テストは学習への意識を高めるという点で有効であった。家庭との連携を図り充実させていきたい。</li> </ul>
	「読解力を伸ばす」研究の推進と授業力の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修において「言葉の力」を共通理解し、研究授業等を通じて読解力の向上を目指した。</li> <li>・特に若手教職員にとっては、指導法の工夫・改善につながり授業力向上の一助となった。</li> </ul>
生徒指導	児童理解と組織的な対応 外部関係機関との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を要する児童の状況に応じて、全職員の共通理解のもと組織的にかつ柔軟な支援体制を取ることで、問題行動の未然防止を図った。</li> <li>・今田中学校や医療との連携、また必要に応じてケース会議を行うなど、今後も継続して安定した生活が送れるよう支援の方向性を検討した。</li> </ul>
	規範意識を高める指導	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつを大きな声でする」等社会のルールやマナーを守らせるよう指導をしているが定着していない。児童がルールやマナーの大切さを理解し、納得し、行動に移せるように家庭と連携し、根気強く指導していくことが必要である。</li> <li>・次年度は児童会とともに取組を進めたい。</li> </ul>
保護者・地域との連携	学校運営協議会との連携	B	本年度も「ふるさと講演会」等主催事業をはじめ、さまざまな活動を企画・実施していただいた。
	地域人材の活用とふるさと教育	A	サギソウ・丹波焼成活動・黒豆など地域のゲストティーチャーにお世話になり、今田小ならではのふるさと教育を推進することができた。
	学校情報の発信	B	月1回の学校だよりの発行（全戸配布）、ホームページの更新により情報発信に努めた。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・本年度の学校運営協議会主催「ふるさと講演会」は今田発祥の楽空間だったので、児童が興味を持って演舞体験をすることができた。委員としても子どもたちのそのような姿が見られて良かった。これからも継続していきたい事業である。
- ・ホームページの更新は先生方の無理のない範囲で、写真だけの掲載でも良いと思う。
- ・あいさつに関しては今田小中ともに、する子はする、しない子はしないの両極端であるように感じる。まず保護者がきちんとあいさつをすることが大事である。
- ・児童アンケートの結果が悪い学年に関しては、地域の社会体育で見ている、幼く感じるし、規範意識が低いように感じる。

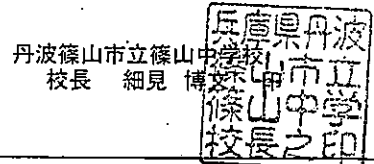
##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・子どもの登下校時の安全を守るという観点から、地域を巻き込んだ取組も大切だが、スクールバスの柔軟な運用は図れないものか。運営協議会から要望書を上げていくことも考えていくべきではないか。
- ・SNSに係るトラブルについて、中学校では指導が大変であることをよく聞く。小学校でもしっかりと親を巻き込んだ指導をしていく方が良い。
- ・保護者アンケートの回収率が84%であるのは低すぎる。保護者にわかりやすいようにアンケート用紙の色を変えとか、メールでのアンケートに切り替えるとかの工夫がほしい。
- ・中間休み等で外遊びをしない学年があるのが気になる。小学生らしい発散の仕方ができていない。子どもらしく遊ぶときはしっかり遊んでほしい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童へのアンケート結果で「勉強はよくわかりますか」に対して、3年生ぐらいから肯定的な意見が減っている。学習内容が難しくなることもあるが、引き続いて丁寧に指導して行ってほしい。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつに関しては、児童に「なぜあいさつはしなければならないのか」を理解させ、自発的に行動できるような指導の手立てを考える。また、あいさつは家庭教育の範疇でもあるので、家庭と連携した指導はもちろんのこと児童会を巻き込んだ取組を考えていく。</li> <li>・いじめの認知に関しては、被害を受けた子どもの受け取り方の違いでも件数の違いが出てくると思う。これからも一人一人に応じた地道に丁寧な取組を継続してほしい。</li> </ul>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと講演会」は意義のある取組である。地域からの参加者を増やすような手立てを考えつつ、次年度以降も3つのテーマ（日本遺産・音楽系・運動系）をローテーションしながら開催していけば良い。</li> <li>・見守り隊の活動について、委員として地域の会等で多くの方に協力いただけるように働きかけをしているが、それにも限界はある。子どもの安全を最優先で考えると、スクールバスの有効活用・柔軟な運用に関して、運営協議会が市教委等に要望書を上げていく活動も今後視野に入れる必要があるように思う。</li> <li>・ホームページの更新はなかなか大変だと思う。必要以上に負担にならない程度で良いのではないか。</li> <li>・焼成活動やサギソウ栽培等、地域に根ざした今田ならではの取組ができています。</li> <li>・将来的に学校運営協議会として、例えば土曜日に親子で参加できる行事を開催するなど、今田独自で何か面白いことが考えられたらと思う。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書



## 1 学校教育目標等

基礎力・思考力・実践力をもち、支(さ)さえ合いの中で躍(や)動して学(ま)び続ける生徒の育成

## 2 今年度の重点目標

- 1 予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正、推敲などの振り返りにより「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進める。
- 2 いじめ、不登校等に対して、即時即日に関係機関とも連携した組織的な生徒指導を充実するとともに、情報機器の活用等、今日的課題について関係機関も活用し、実感を伴った教育活動を進める。
- 3 生徒・保護者・地域・教職員による四つの力委員会を核として、社会や将来の糸口となる、夢のある講演、やりがいのあるボランティア活動、やすらぎのある安全点検を進め、生徒の自治能力や社会参画する力を育成する。
- 4 校務や会議の効率化、記録簿によりタイムマネジメント意識の向上を図る中で業務改善を進める。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A:よく達成できた B:達成できた C:やや課題が残る D:改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方針
学習指導	「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている。	A	・篠中授業スタンダード(見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返り)による授業改善をめざし、一人一回以上の公開授業、5回の授業研究会を行った。目標、授業の流れなどのより効果的な提示を行い、生徒が見通しを持って取り組める授業改善を進めることができた。
	生徒同士の活動を取り入れた授業をしている	B	・全校生徒の87%が授業が分かる。96%が対話、発表があると回答しており、対話がさらに深い学びへとつながるよう、InputからOutput(書く、表現する、修正する)を重視する授業を一層推進する。
	予習や復習などの家庭学習に取り組ませている	C	・予習・復習をする生徒は全国的な傾向より高いものの、64%であり、家庭学習習慣の確立を図るために、教科間の連携を図りながら、系統的に予習・復習の課題を出題する。
	特別支援学級の生徒及び通常学級に在籍している支援を要する生徒について、学期ごとに個別の指導計画を見直し、全職員で共通理解をしながら指導を行っている。	A	・特別支援学級生徒の個別的教育支援計画を作成し、一月に一回程度の頻度で特別支援委員会を開催し、PDCAサイクルで進めてきたが、生徒数が多いため、支援策の共通理解と実施が十分でない面がある。特別支援学級生徒、通常学級で支援を要する生徒について、支援策のより重点化する方策を全職員で研修を行い、共通理解・実践を行っていききたい。
生徒指導	学校は、いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている。	B	いじめについて、積極的に認知し、早期対応が概ね実施できたが、部活動中のいじめの指導が継続中である。未然防止の内、生徒会や部活部長会による生徒の自発的な活動を活性化させる必要がある。
	学校は、不登校、問題行動、その他の生徒指導について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している。	A	・ケース会議等を含む組織的指導により、問題行動実人数、不登校は減少傾向にある。一方で、保護者等の相談対応で情報共有が遅れた事例があったので、連絡体制の改善と職員研修を行った。
	学校は、情報機器取り扱いについて、生徒会・PTA・警察と連携した取り組みを行っている。	B	・警察署、弁護士、大学教授など様々な立場の人材を活用し、情報機器の取扱について講演を行うことができた。一方で、SNSでは、肖像権をめぐる問題など新たな課題が出てきており、入学式、参観日など、保護者が集まる時を利用し、啓発をしていきたい。
	道徳研修を意図的に行い、道徳の時間の改善に努めている。	A	・他者や自己と対話する道徳の時間をローテーション等で指導し、全職員で授業と評価の研究を推進した。また、12月20日に公開授業研究会を実施した。他校からの参加者もあり、一定の成果をあげることができた。本校の授業スタンダードも踏まえつつ、「特別の教科 道徳」について授業研究を継続する。
家庭地域連携	学校は、学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・図書だよりなどの発行、ホームページの毎日の更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行っている。	A	・四つの力委員会を学期に1回以上実施し、学校運営協議会に参画する団体と連携した地域貢献活動「人権啓発活動「人権ミライエ・プロジェクト」を企画し、生徒が積極的に参加した。丹波篠山ふるさと大使による講演会を実施した他、音楽の授業における和楽器、保健体育における薬物乱用に地域人材を活用できた。今後も四つの力委員会に地域人材を導入しながら、イベント的ではなく授業支援で地域人材活用を進める。
	学校は、学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動・花いっぱい活動を積極的に行っている。	A	・ホームページの毎日更新や、学校経営方針啓発チラシの全戸配付など意図的に広報活動を行い、学校の教育活動をアピールすることができた。
	学校は、小中連携推進委員会、小中合同研修会、各小学校への出前授業、体験入学、入学説明会などを通して、小中の相互理解に努めている。	B	・小中連携については計画通りに実施することができた。特に、合同研修会をまとめた冊子の作成、新入生説明会における体験授業、出前授業は大きな成果をあげることができた。来年度は、新入生説明会・保護者説明会を同日開催し、児童・保護者負担を減らす。
業務改善	学校は、原則週2回のノ一活動デーを実行したり、部活動計画を毎月生徒・保護者に周知するなど、適切な運営をしている。	B	・部活動ガイドラインにそって、週2回(木曜日と土日いずれか)のノ一活動は、新チーム移行をきっかけに完全実施した。しかし、中体連以外の大大会・大会前のあり方など課題もあり、月平均で部活休業日を設定している。部活動のあり方について、生徒負担軽減の観点からさらに保護者に周知する。
	あなたは、木曜日は定時退庁の日として、18:30までに退庁している。	B	・記録簿より退庁の遅い職員に指導を行ったが、特に学期始めの退庁時間が遅い傾向があり、今一度会議の効率化、定時退庁の意識の向上を図っていききたい。生徒指導対応で一部の教員に負担をかけており、問題行動の未然防止をあわせて進めたい。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

・学力向上、生徒指導、家庭地域連携、業務改善と、課題の柱が明確になっている。  
 ・生徒会と学校運営協議会が学校づくりについて議論する「四つの力委員会」で、中間評価や年間評価に関連する項目について、実際の生徒の姿や意見にふれたので評価しやすかった。

##### (2) 総合的な評価(意見・感想)

・10年ほど前の篠山中学校では、非常ベルがならない日がないほど問題行動が発生し、先生方も11時頃まで生徒指導に追われていた。今の篠山中学校は、自信をもって、積極的に生徒の様子を見せていく状況になっているのが伝わってくる。一部生徒の交通マナーで地域からおしかりをうけることがあっても、地域でしっかりあいさつをしている。  
 ・街が地域を育てている伝統がある中で、PTAでも様々な価値観が生じてきている。学校が学年3クラス平均になっていくことを考え、学校と地域がより密接にしていく必要がある。何でも先生に押しつけるのはよくない。  
 ・生徒アンケート、保護者アンケート「予習・復習をしているか」の肯定的回答率が学年によって差がある。家庭学習習慣を育成するために、学校として統一性のある指導をした方がよいのではないかと。また、自主性を引き出すように、家庭学習の手順と内容をガイダンスしたり、将来の目標との関係を指導したりしてはどうか。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート、保護者アンケート「予習・復習をしているか」の肯定的回答率が学年によって差がある。家庭学習習慣を育成するために、学校として統一性をもって指導してほしい。</li> <li>・自主性を引き出していけるような取組が重要である。どの程度自主勉強ができればOKになるのか目標をもたせる。家庭学習の手順と内容を丁寧にガイダンスする。将来のビジョンと家庭学習習慣の関係を入学当初に指導しておくなどの取組を進めてはどうか。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学校に来ることができている生徒の割合が高い。こういう学校になっていっているのは素晴らしいと思う。先生方がきめ細かく取り組んでいる成果だと思う。</li> <li>・10年ほど前の篠山中学校では、非常ベルがならない日がないほど問題行動が発生し、先生方も11時頃まで生徒指導に追われていた。今の篠山中学校は、自信をもって、積極的に生徒の様子を見せていく状況になっているのが伝わってくる。一部生徒の交通マナーで地域からおしかりをうけることがあっても、地域でしっかりあいさつをしている。</li> </ul>
家庭・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生と大人が協議する「四つの力委員会」は、普段、地域の大人と話すことがない中学生にとっても、大人にとってもよい機会になっている。「四つの力委員会」で協議したことが、自治会長を通じて地域に広がってほしい。</li> <li>・地域の方を授業に活用していくことを進めていく。学校の中でゆとりをもって取り組めるように、特別な行事をつくるのではなく、授業の中で支援が得られる人材を活用する。そのために、学校運営協議会の中で、具体的にどのような内容が授業で活用できるか考えていく。</li> <li>・街が地域を育てている伝統がある中で、PTAでも様々な価値観が生じてきている。学校が学年3クラス平均になっていくことを考え、学校と地域がより密接にしていく必要がある。何でも先生に押しつけるのはよくない。</li> </ul>
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導者数不足が起こってくる。学校運営協議会などで指導者をさがすなど、学校の支援の展望をつくることも必要だと思う。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山東中学校  
校長 溝 端 洋 美



## 1 学校教育目標等

「つなぐ力を持ち、自ら考え行動できる生徒の育成」  
～気付き 伝え 深める～

## 2 今年度の重点目標

- 1 学ぶ意欲 確かな学力（\*主体的な学び\*家庭学習の定着\*個に応じたきめ細やかな支援）
- 2 やさしい心（\*人権教育・道徳教育の充実\*安心して過ごせる学校づくり）
- 3 たくましい身体（\*健康・安全教育\*登校する喜び・楽しさ）
- 4 地域との連携（\*愛校心・郷土愛 \*地域とともにある学校づくり\*小中連携）
- 5 元気な教職員（\*心身ともに健康な教職員\*計画的な年休・割り振りの実施）

## 3 学校自己評価結果

（達成状況・・・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	活動（作業）、協同（ペア学習・グループ学習）、表現（発表）のある授業を意識して取り組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度「主体的・対話的で深い学び」授業改善促進事業の研究指定を受け、「めあて」が学びを深めるための道しるべになった。また、対話的学びを可視化することで学びを実感できるふりかえりにつながった。</li> <li>・生徒自らが「自分から学ぼう」とする主体性を育てながら家庭学習の充実に努めていく。また、時間だけではなく内容の充実にも取り組んでいきたい。</li> <li>・木曜日の放課後等を利用し、できる限り個に応じたきめ細やかな指導を心がけたが、時間にも人数にも制約があり効果が上がりにくい。</li> <li>・道徳の授業で、話し合い活動の過程を可視化することにより、子どもたちの変容した姿がよくわかった。評価方法の研修を行った。</li> <li>・市名変更に伴い、市長の学校訪問で地方自治について学び、ふるさと教育に繋げた。</li> <li>・平常時の生徒指導の充実に努めた。また、定期的に委員会を開催、教育相談を実施することで早期発見、早期対応に心がけた。</li> <li>・定期的な安全点検、毎日の交通指導、安全啓発を行った。</li> <li>・情報機器の取り扱いについては、「ネットの危険性」「ネット依存」の両面から指導した。また、生徒会を中心に情報機器の取り扱いについて家庭のルールの見直しをしている。学校と家庭が一体となり指導を継続する。</li> <li>・各種たより、HP更新等により広報活動に努めた。今後もHP更新は継続しながら啓発の方法も考えたい。</li> <li>・学校運営協議会が主催して行事を進めても参加者が固定化し、それ以上の啓発が難しい。</li> <li>・予定通り交流会、連絡会、出前授業、研修会等実施できた。</li> <li>・業務改善について職員の意識は高まり、人任せにせず一人ひとりが主体的に考え、実行しようとしているが、限界がある。</li> </ul>
	「めあて」を分かりやすく提示し、最後に「ふり返し」をして理解度をチェックしているか。	A	
	家庭学習の定着（時間・内容）に向けて指導しているか。	C	
	休み時間、木曜日の放課後等を使って、個別の指導を行っているか。	C	
道徳教育	道徳の時間、生徒の考えや意見を大切にしたい心にせまる授業を心がけているか。	A	
	授業の中に「ふるさと篠山」に関連のある題材を取り入れたか。	B	
生徒指導	欠席生徒、不登校傾向生徒に対して、生徒指導委員会、生徒支援委員会、ケース会議、学年などで組織的に対応しているか。	A	
	毎月の安全点検、交通立番、生徒への安全の啓発を確実にし、ケガや事故防止に努めているか。	A	
	情報機器の取り扱いについて指導をしているか。	B	
家庭地域連携	学校だより、学級だより、保健だより、ホームページなどを通して、積極的な広報に努めているか。	A	
	コミュニティ・スクール事業によって、地域の方がより多く教育活動に参画されているか。	C	
	小中交流会、小中研修会、出前授業、連絡会により、小中の情報交換が進んでいる。	A	
業務改善	ノー会議デー、ノー部活デー、定時退庁が進んでいる。	C	



4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

・重点目標は妥当である。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

\* 学校を訪問したとき、生徒は礼儀正しく、すごく気遣いができると感じた。自分の居住する地域には子どもがいなくて地域での生徒の様子はわかりにくい。  
 \* 部活動の適正な運営にかかる方針については次のような意見があった。  
 ・子どもの夢をつぶしている。大人の都合でこのような規定を適用してはいけない。  
 ・この規定の周知は小学校低学年からすべきである。  
 ・子どもたちの思いをもっと聞き入れるべきである。廃部にせずに休部にしてはどうか。  
 ・丹波篠山市や市教育委員会が指導者やスポーツができる環境、体制づくりについて考えていくことが大切である。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	* 放課後学習については、生徒自ら参加するのか先生から指名されて参加するのかわからないが、より参加しやすく、課題が解決できる環境を作ってやってほしい。
生徒指導	* ネット社会にある子どもたちには、情報機器取り扱いについては、今後も危険な具体例をあげながら継続して指導していく必要がある。 * 不登校の原因は特定しにくいと思うので、生徒に寄り添いながら信頼関係づくりをお願いしたい。

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀中学校

校長 伊勢 三十六



## 1 学校教育目標等

**基礎力・思考力・実践力をもち、自立に向かう生徒の育成**  
 ～元気な子ども 元気な先生 元気な学校～

## 2 今年度の重点目標

- 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善
- 未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育・進路指導
- 豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育、特別活動
- 学校・家庭・地域が更に連携強化した安全で信頼される学校づくり

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力向上 授業改善	①新学習システムを活用した少人数指導や補足的な学習、発展的な学習など、個に応じ個が生きる指導内容・方法の授業改善を進める。	A	*全学年、英語・数学における習熟度別指導、少人数指導、放課後を中心とする、補充学習やがんばりタイムの実施は効果が高い。更なる基礎学力の定着、家庭学習の充実、学習方法の確立は課題である。
	②見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返りを通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	B	*研究課題を明確にして、教科の枠を超えて、組織的な校内研修への取り組みは出来ている。授業スタンダードに基づき、対話的活動、ICTの導入、予習への取り組み等が自然なかたちで授業の中で取り入れられている。
生徒指導	①SC・SSWと連携した教育相談活動を充実するとともに、相談窓口を明確化し、早期発見・早期対応に努める。	A	*全てが結果として表れていない部分もあるが、生徒指導委員会・ケース会議を中心とした、問題行動・不登校の未然防止、早期発見・早期対応の取り組みは評価できる。
	②生徒指導方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携し継続した組織的・計画的な個別支援を行う。	C	*全教職員による情報の共有化、関係機関との更なる連携強化、情報モラル指導には、ある面で課題が残る。来年度、校内のヨコの連携強化、警察との更なる連携強化、情報モラルにおける保護者への啓発を強化したい。
特別活動	①学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする自主的、実践的な態度を育てる。	A	*全体的には、ねらい・目的を明確にした行事への取り組みや教育活動の展開が、生徒の高い意欲を引き出し、充実した日々の授業・学校行事・生徒会活動につながっている。生徒たちの責任感の醸成、高い達成感が感じられる。
	②学校・学級の課題について、話し合い合意形成・協力して改善することを通し、現在及び将来を見据えた課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。	B	*今後、生徒数や教職員数が減少していく中、行事の持ち方、学年経営の在り方、部活動の運営や精選、生徒会組織の見直し等、早急に検討が必要である。

キャリア教育 進路指導	①教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを考える中で、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。	B	*地域人材の活用、各種ボランティア活動への参加は、生徒の地域貢献や心の成長の機会となっている。わくわくオーケストラ・トライやる・面接練習等の丁寧な各学年での取り組みは、大きな成果である。
	②生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートや体験活動を通して、個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。	B	*3年間を見据えた、系統だったキャリア教育・進路学習の推進計画の見直しは必要である。また、保護者アンケート結果より、1・2年生における進路学習や進路情報等の発信については、内容や時期に課題が見られる。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- \*わかりやすい学校教育目標、指導の重点となっている。
- \*8項目の重点課題より、4つをピックアップされて、今年度の重点目標を焦点化されたことは評価できる。
- \*学校自己評価での課題を、3カ年計画に組み入れて、取り組みを推進して欲しい。

##### (2) 総合的な評価(意見・感想)

- \*分野・項目によっては、厳しい評価となっているところもあるが、冷静に評価出来ている証拠である。「出来ていない」「問題がある」というより、「まだ、取り組める余地はある」という視点から頑張ってもらいたい。
- \*各評価項目が、やや長すぎる。わかりやすい、評価しやすい項目になるように見直しを図る。
- \*学校自己評価での課題が、3カ年計画の柱となって、次年度への取り組みが明解化されている。

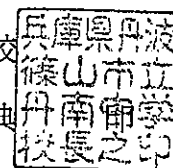
##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
安全教育 防災教育	平素より、訓練・学習等に取り組んでおり、安全面における細やかな配慮もあり、高い危機意識を感じる。今後も、情報モラルにおける保護者への啓発や学習会、薬物乱用防止についても、取り組みを継続させてほしい。
特別活動	学校行事での生徒たちの取り組み、表情、達成感には目を見張るものがある。長期的な展望の中で、部活動の精選、部活動の適正な運営に向けた方針の作成に取り組んでいただきたい。
キャリア教育 進路指導	1・2年生における、進路学習や進路情報の提供は、時期的なこともあり、出来ていないということではない。キャリアノートの引き継ぎや活用については、抜本的に方策を検討し直すべきである。
学力向上 授業改善	家庭学習の在り方・学習方法や学習習慣の確立・基礎学力の定着・外国籍生徒への指導の充実に向けて、時間をかけて具体的な指導が必要となってくる。朝の読書や読み聞かせについても、効果的な方策を検討して頂きたい。
生徒指導	やや厳しい評価となっているが、「まだ、取り組む余地はある」ということの表れである。組織対応・早期対応はしっかりと出来ており、ケース会議も大きな成果が出ている。
特別支援 道徳教育 人権教育	特別支援学級生徒や外国籍生徒へ細やかな配慮や支援が出来ている。人を思いやる優しい心と共に、自分の思いをしっかりと主張できる生徒の育成をはかってほしい。各種ボランティア活動への参加が、心の成長につながっている。
コミュニティ ・スクール	「四つの力委員会」での協議は、今後も継続していくべきである。各種のボランティア活動への参加が、地域貢献活動や心の成長に少しでもつながるよう、更に内容や方法を検討する。来年度は、化石発掘に関する授業やボランティアを考えて行きたい。
組織の活性化 業務改善	本当によく頑張ってもらっているが、教職員に余裕がないと、元気な組織は作れない。教職員も、自分のためや家族のために使う時間も大切にしてほしい。業務改善は、あくまで、生徒と向き合う時間を確保するという視点から推進して欲しい。

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立丹南中学校

校長 田端 俊典



## 1 学校教育目標等

校訓 『立志・琢磨・愛郷』

学校教育目標 確かな学力をもち、自己実現に向かうこころ豊かな生徒の育成

## 2 今年度の重点目標

1. すべての生徒が自ら学び、自ら考え、いきいきと活動する学校をめざし、既成概念にとらわれず、予習を中心とした授業デザインを工夫し、自ら学ぶ意欲を高めていける学習指導の充実を図る。
2. 生徒の健康や安全を守り、危機に的確に対応し、自己安全管理ができる生徒を育てる学校をめざし、組織ネットワークを構築し、組織的な生徒指導体制を確立するとともに、生徒と関わり合う時間の確保に努め、存在感や成就感を大切にする等、自己肯定感を高める指導の充実を図る。
3. 保護者や地域と連携・協働し、自立した生徒を育てる学校をめざし、関係機関との連携を進めるとともに情報を効率的にホームページなどで発信し、地域の持つ教育力を効果的に取り入れ、地域とともに生徒の育成を図る。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	既成概念にとらわれず予習を中心とした授業デザインを工夫し、自ら学ぶ意欲を高めていける学習指導の充実を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習（予習動画の視聴や予習プリントでの学習）をして授業を受ける習慣がかなりついてきている。授業において生徒同士が教え合い、説明する力をつけるような授業展開ができた。</li> <li>・動画や予習プリント作成の際、見通しを持った授業展開を考えることで教師の指導力の向上が図れた。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」に向けて、授業のあり方について次年度もさらに研究を進めていきたい。</li> </ul>
	基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、「わかる授業づくり」を実践できたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業を多くの教科で行い、イメージや見通しを持たせやすい授業展開ができた。</li> <li>・プリント学習や小テストの実施により、個のつまづきを把握し、理解度に応じた指導を行い基礎基本の定着を図ることができた。</li> <li>・教職員が相互に授業を見学できる雰囲気作りに努める等、指導力の向上を図ることができた。</li> </ul>
生徒指導	組織ネットワークを構築し、組織的な生徒指導体制を確立することができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹南中の生徒は全職員で見る」の意識の下、生徒指導委員会（いじめ・不登校対策委員会）を中心に職員が様々な場面で情報共有を行い、学年所属にかかわらず生徒一人一人に目を行き届かせる意識が持てた。また、保護者・関係機関との連携を強化することができた。次年度も継続し、SSDiaryに記録を残すことを徹底し、教職員の共通理解を図り、組織的な指導体制の確立していきたい。</li> </ul>
	いじめ等の事象に敏感に対応し、見過ごすことのないよう実態の把握に努めることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月末のいじめ・SNSアンケートや定期的な教育相談を実施するとともに、日々の生徒観察や生活ノート等によりきめ細かく実態把握に努めた。また、問題行動等に対し教師が敏感に察知し、学年等の枠を超えて対応することができた。</li> </ul>

安全管理	すべての教育活動において生徒に「自己安全管理」の徹底を図ることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会やPTA、地域と連携し、あいさつ運動や交通立番活動を実施し、交通安全に対する意識を高めた。今後も連携を図っていきたい。</li> <li>朝会等の講話で「自己安全管理」について生徒に周知徹底を図った。</li> </ul>
	安全・防災教育の充実を図るとともに自他の生命を尊重する態度を育成することができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら考えて行動しなければならない防災訓練を実施し、安全意識の高揚を図った。</li> <li>道徳や特別活動の時間を中心に、全教科において安全教育の充実を図った。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- 予習動画や予習プリントを用いた予習を中心とした授業についての取組は、先進的で丹南中学校の特色となる取組であるので今後も継続して進めてほしい。
- 学校自己評価の結果から、概ね良い評価となっているので良い方向で学校運営がなされていると判断できる。
- 結果の分析、考察に基づき、次年度にどのような取組を進めていくのか共通理解の上で実施していただきたい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

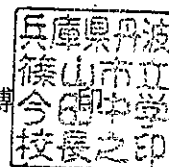
- ホームページや学年通信などで学校の様子がよくわかり、非常に良いが、担当の教師の負担にならないか心配である。
- 生徒会執行部との懇談会は、非常に有意義であったので今後も継続する方向で考えてほしい。
- LGBTなどさまざまな観点から制服や校則について、今後見直していく必要があるのではないかな。
- 行事等の参観を通して、多くの生徒が一生懸命に取り組んでいる姿に感動した。
- 学年が進むにつれて集中して授業を受けている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている様子が見受けられた。
- キャリア教育を踏まえて、大学生との交流やさまざまな分野で活躍している卒業生の話聞くことも必要ではないかな。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の結果より、本校で行っている予習を中心とした授業づくりの研究がしっかりと推進されていると感じている。</li> <li>予習プリントや予習動画を活用した授業形態が定着し、家庭学習の習慣化が図られている生徒が多くなり、自分の意見や考えを積極的に発表する生徒が増加しているので、今後もこの取組を継続してほしい。</li> <li>授業がわかりやすいと感じている生徒の割合が高く、ICT機器を積極的に活用するなど先生方がわかりやすい授業をするために工夫されていることが推察される。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のいじめ・SNSアンケートや定期的な教育相談、担任と生徒との生活ノートでのやりとり等で生徒の実態の把握が十分になされている様子がよくわかる。</li> <li>担任が複数いるということは大変きめ細かな配慮である。今後も複数担任制を継続して行ってほしい。また、「丹南中の生徒は全職員で見る」という姿勢を持ち続けて一人ひとりの生徒と向き合っていただきたい。</li> </ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな場面でとっさの場合にどのように行動すれば良いかを考えさせ、自分で考えて行動する力をつけさせていきたいので「自己安全管理」を言い続けていくことが大切である。</li> <li>地域の中で生徒たちはよく挨拶をし、非常に気持ちが良い。生徒会が自主的に行っている「あいさつ運動」およびPTAとともに行っている「交通立番活動」は今後も継続して行い、保護者・地域との連携を深め、生徒の安全防災意識を高めていく。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立今田中学校  
校長 中道 博



## 1 学校教育目標等

学校教育目標 「主体的に学び、自己実現に向かう、こころ豊かな生徒の育成」 目指す生徒像 「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」「学ぶ意欲」を大切にする生徒
---

## 2 今年度の重点目標

1 組織的できめ細かな生徒指導体制を確立し、生徒の心に寄りそう生徒指導を行う。 2 コミュニティ・スクール事業を核に地域とともにある学校づくりを進める。 3 ICTや「学び合う活動」を積極的に取り入れた授業を展開し、活用する力を育成する。 4 キャリア教育を通して未来を切り拓く力を育成する。 5 教職員の働き方改革を推進し、働きがいのある、働きやすい職場づくりを進める。
--

## 3 学校自己評価結果

(達成状況・・ A:よく達成できた B:達成できた C:やや課題が残る D:改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力向上	○学びあう活動の充実（「書く」「話し合う」「意見をまとめる」「発信する」活動を積極的に取り入れる。）	B	授業の中で書く活動、話し合う活動を積極的に取り入れることができた。フォーサイトノートを導入することにより、見通しを持って学習などに取り組もうとする意識が生徒の中に育ちつつある。
	○キャリア教育を充実し、学びに向かう姿勢を確立する。	A	キャリア教育研究発表会を開催し、本校の取組を発信することができた。「進路について考えている」の回答が、1、2年生で高まるなど、成果が出てきている。
生徒指導の充実	○生徒との信頼関係を基にした生徒指導の充実（未然防止・早期対応の徹底）	A	教育相談を随時実施することにより、教師と生徒との信頼関係が深まった。生徒の頑張りやタイムリーに評価するなど「褒めて伸ばす」という意識が教職員に浸透しつつある。
	○共通理解・共通実践の徹底（生徒指導委員会の方針を全職員が徹底して実践する）	B	生徒指導委員会で課題のある生徒に対する情報および指導の方向性を共有し、全職員が共通実践していくことができています。
	○情報機器利用マナー指導の充実（SNSをめぐるトラブルの未然防止を徹底する。）	B	情報機器利用に関する学習会を学期に一度実施した。生徒の意識が高まった。保護者からの相談でSNSによるトラブルを早期解決できた事例もあった。
地域とともにある学校づくり	○情報発信の充実（学校便りや学級通信、ホームページで定期的に情報発信する。）	B	各種通信、ホームページで定期的に学校の取組を積極的に発信できた。どの学年でも95%近くの保護者が学校の取り組みを評価している。
	○コミュニティ・スクール事業を核に地域・保護者との協力体制を構築する。	A	学校運営協議会が主体となって、第2回「生き方を考える講演会」を開催するなど、コミュニティ・スクール事業を計画的に推進することができた。
	○地域活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、地域との信頼関係を深めていく。	B	夏祭り、地区運動会、陶器祭り、今田元旦マラソンなどの地域行事に参加する生徒が多く、ふるさと今田に貢献しようとする意識が育っている。地域から信頼される学校づくりが進んでいる。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・生徒や保護者との信頼関係を基にした指導は全ての学校教育活動の基本である。生徒が落ち着いた生活を送り、学習や部活動で意欲的に取り組む姿が見られるのも、信頼関係ができてきているからこそである。
- ・とくに、全教職員が校長の学校経営方針を共有し、「褒めて伸ばす」という意識を持っている点が評価できる。今後もそのスタンスを大切にしてほしい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・学校運営協議会の委員として学校の様子を見る機会が増えた。今後も教育界は大きく変化していくだろうが、人として大切なことを学べる今田中学校であってほしい。
- ・生徒や保護者のアンケート結果から、今田中学校において充実した教育活動がなされていることが分かる。少数ながら学校生活に不安や不満を持っている生徒もいる。そのような生徒を大切にしたい指導をお願いしたい。

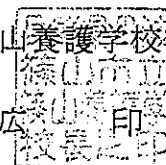
##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習に積極的に取り組んでいる」という設問に対して肯定的に回答した生徒の83%に対し、保護者は67%である。この結果を基に家庭で親子が話し合う機会にするべきである。</li> <li>・子どもが高校生になって、進路を考える機会が非常に増えた。今田中学校ではキャリア教育に力を入れているが、それは非常に大切な取組だと感じる。目標ができたとき、子どもたちは学習にしっかり取り組むようになる。</li> <li>・「フォーサイトノート」を活用し、時間を上手に使う力、少し先を見て計画的に努力する力をさらに伸ばしてほしい。</li> </ul>
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめは大人になってからも消えない悲しい思い出になってしまう。学校のいじめを許さないという確固たる姿勢と指導方針はとても大切である。今後も子どものサインを見逃さない、丁寧な指導をお願いしたい。</li> <li>・不登校の生徒にいかに寄りそうか。周囲の生徒への適切な働きかけについては、今後の課題としてほしい。</li> <li>・SNSについて様々な報道がなされており、子どもがターゲットになっている。関係機関と連携しながらSNSについての学習を定期的実施することは大切な取組である。継続してほしい。情報機器を持つのが低年齢化しているので、小学校でも学習会を実施する必要があると感じる。</li> </ul>
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよいあいさつができる生徒が多く、嬉しく思う。またサマーフェスティバルや元旦マラソンなどのボランティア活動にも積極的に参加するなど、地域との関わりが深まっている。</li> <li>・ホームページについてはよく見せてもらっている。定期的に更新されているので、楽しみである。今後も地域への発信を積極的にお願いしたい。</li> <li>・運営協議会が主催する「生き方を考える講演会」については今田中学校のコミュニティ・スクールを代表する取組である。本年度の講演も非常に良かった。来年度は今田中学校OBが講師として招聘されるが、生徒たちが将来のことや生き方について考える機会となることを期待する。</li> </ul>

# 令和元年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山養護学校

校長 高森 俊広



## 1 学校教育目標等

夢と希望を抱き 心豊かにたくましく生きる子の育成

～明るく いきいきと～

## 2 今年度の重点目標

- 一人一人の実態を把握し、保護者の意向と教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導の充実
- 学校・家庭・地域との連携を更に強め、安全安心で信頼される学校づくり
- ねらいや目的を明確にした学校行事・校外学習・ふるさと教育の推進
- 「更に質の高い特別支援教育を目指して」をテーマにした3カ年計画をすすめ、成果をまとめる

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育 学習指導	個別の指導計画及びキャリア教育「つきたい力」リスト・個別のチェックシート等をもとに、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、授業改善に取り組んでいる	A	個別の指導計画を担当だけではなく、チームで検討し、生徒の実態に合わせた指導ができた。 来年度以降も「つきたい力リスト」を発展させ、発達段階に応じたキャリア教育の充実を目指す。
	個々の課題を明確にして、その実態や課題に応じた指導内容、指導方法、指導形態を工夫する。	A	幼児生全員の実態や課題を把握し、個別の指導計画や支援計画、日々の指導や支援に活かすことができた。
生徒指導	いじめ、不登校をなくすことを目指し、きめ細かな生徒指導が全教職員共通理解のもとで推進できている。	B	いじめに関しては、疑いがあれば該当学部や関係機関と連携し、適切に組織的な対応ができた。 不登校生については登校まで至っていないが、好転の兆しが見えてきている。
	基本的な生活習慣や生活リズムの確立を図り、自立への基礎的な力を育成する。	A	支援計画や指導計画と生徒の実態を照らし合わせながら指導ができた。 今後も外部機関との連携を取り、自立活動の指導の充実を進めていく。
地域とともにある学校づくり	地域の教材や人材を積極的に活用して、ふるさと教育をはじめとする体験的学習を推進している。	B	中学部・高等部では王地山焼きの講師を招いて伝統工芸を学んだり、幼小学部では地域の方と一緒に昔遊びを楽しんだりして体験的な学習ができた。 校区が市内全域と広く、特に幼小学部では自分の居住地近隣の学習はしにくい。
	学校運営協議会を通して、地域との連携強化に努めている。	A	主催行事として「ささよう音楽会」を開き、本校関係者以外にも地域や関係事業所等から参観があり、盛会であった。 新春ふれあい交流会では、協議会の委員さんや地域・関係者からたくさんの参加があり、楽しい交流会ができた。



#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・さまざまな行事に参加させてもらっていて、子どもたちが一生懸命に取り組んだり成長したりしている姿が見られる。それを見ると感動もするし、丁寧に指導されているのがわかる。
- ・安全安心な学校づくりでも、地域や近隣事業所と合同で避難訓練等が実施できている。常に連携がとれている。
- ・3カ年計画で取り組んだ成果をこれからの活動に反映させていかなければならない。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・どの項目も比較的良好な評価になっているが、B評価の項目についてはもう少し説明が欲しい。
- ・B評価については努力をしているが、なかなか成果が表れていなかったり、もう少し努力を続けていかなければいけない内容だと認識している。（学校より）
- ・保護者が知ったり、理解したりしなければいけないことが多いのではないかと。情報機器の使用等についても保護者が知っていないと話ができない。
- ・業務改善も進めていく必要があると思うが、PTA活動が負担になっていないだろうか。
- ・PTAは大変だけど、先生方の協力がなくなかなか進めるのが難しい。負担であっても頑張りたい、やってみたら楽しいと思えるように進める必要がある。心の持ち方もプラス思考で取り組んでほしい。
- ・養護学校の職員は子どもだけでなくその家を全部知るくらいの気持ちで取り組んでほしい。
- ・病気等で休まれる先生はいないか。（回答：いない。）
- ・職員研修もされているが、大切なのは先生方の気持ちで、問題意識をもって取り組まないとなかなか身につかないものである。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
キャリア教育 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つきたい力」リストがまとめられているのが良い。普通校の指導ではなかなか過酷な状況にある子どももいる。一人一人丁寧に力を伸ばしてほしい。</li> <li>・信頼できる大人が一人いれば子どもたちは良い方向に変わっていく。</li> <li>・キャリアの獲得については幼小小学部の保護者では先の見通しが持ちにくいかもしれない。高等部になると3年間で早いので保護者も考えやすくなる。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉事業所の利用者の方でも、大人になって他人をいじめたり、攻撃的に接するような人は、過去に学校でいじめの被害にあっているとそうなりやすいように思われる。学校生活を穏やかに過ごすことが大切である。</li> <li>・いじめについては悪気がなくてもいじめになる場合があるのではないかと。どのような基準でいじめを判断しているのか。</li> <li>・（学校より）いじめの判断は難しいがある。ケースバイケースで違ってくるが、どんな場合でも被害にあった側の気持ちに寄り添って考えている。</li> <li>・不登校生について、状況が改善してきているのはうれしい。卒業、入学が良い機会となって新たな気持ちで学校生活が送れるようにしてほしい。</li> </ul>
地域ととも にある学校 づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ささよう音楽会」は良かった。音楽には力がある。来年度も続けたらよい。</li> <li>・今年は「ちめいど」の二人に来てもらって、いろいろ大変な時にも助けてもらえる人で良かった。他にも「とっておきの音楽祭」に出演している方の中に、障がいがあっても音楽を楽しんでいるような人がいる。そういう人にも来てもらえたらよいのではないかと。</li> <li>・「ささよう音楽会」で受付をしていたときに、保護者が聴いても良いのかという質問があった。周知はしたが少しPR不足だったかもしれない。</li> <li>・地域というのが篠山養護学校の場合は市全体で広範囲になり、焦点化しにくいところがある。</li> </ul>